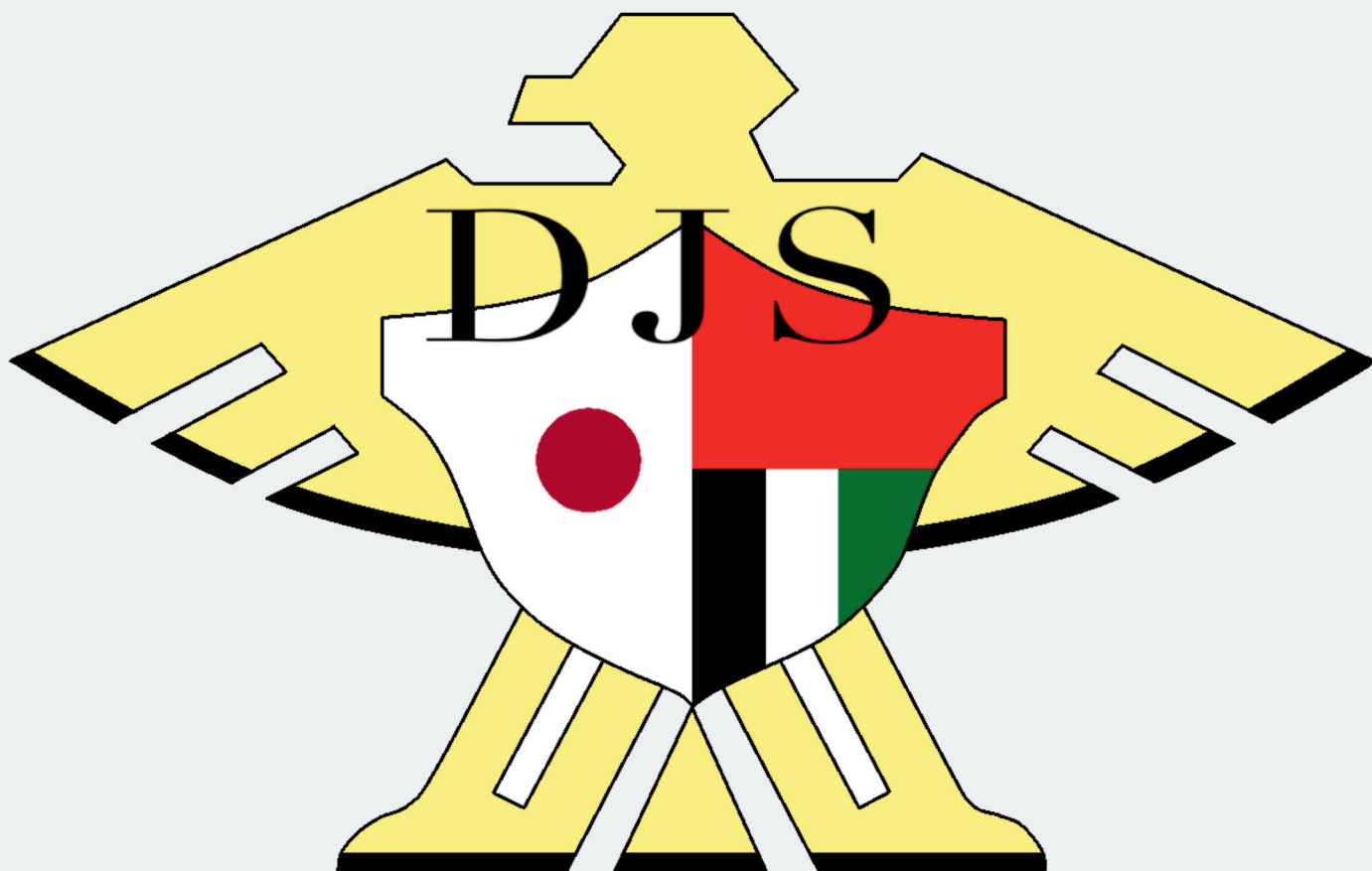


研究集録

ドバイ日本人学校

主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成

自分で「決める」/自分で「考える」学びを通して



目次

研究概要	2
校内研究レポート	
校内研究レポート(加藤)	6
校内研究レポート(金子)	7
校内研究レポート(菅原)	8
校内研究レポート(磯川)	9
校内研究レポート(重堂)	10
校内研究レポート(額賀)	11
校内研究レポート(後藤)	12
校内研究レポート(伊藤)	13
校内研究レポート(葛原)	14
校内研究レポート(萩原)	15
校内研究レポート(佐瀬)	16
校内研究レポート(竹内)	17
校内研究レポート(片野)	18
校内研究レポート(藤村)	19
一枚指導案	
G2体育科一枚指導案(重堂)	20
G8国語科一枚指導案(後藤)	23
G9英語科一枚指導案(竹内)	27
G3算数科一枚指導案(額賀)	31
G4図画工作科一枚指導案(藤村)	35
G1国語科書写一枚指導案(繁田)	38
校内研究	
ワークショップ概要	41
リフレクション①	42
リフレクション②	44
リフレクション③	45
リフレクション一年間	47
研究だより	50

- 1 研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

2 主題設定の理由

(1)今日の課題から

児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、児童生徒の知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は諸外国から高い評価を得ている。しかし、直面する課題として、児童生徒の多様化や学習意欲の低下、加速度的に進展する情報化への対応の遅れがある。従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」の構築を目指している。それが、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現である。

「在外教育施設未来戦略2030」では、現地校・インター校に通う子どもが増加している現状から「選ばれる在外教育施設」「選ばれる日本人学校」づくりや、多様なニーズに応える教育実践や学校運営、在外教育施設における「令和の日本型学校教育の構築」が求められ、「選ばれる在外教育施設」づくりに向けた特色ある教育の研究開発の推進も必要である。

(2)本校教育目標から

本校の教育目標は、「生きて働く力の育成」である。この目標は、知・徳・体の調和がとれ、海外における日本人学校としての特性を活かした、創意工夫あふれる教育活動を展開することにより、児童生徒の自己実現、社会に貢献する人材の育成を目指して設定されたものである。そして、「自主自立・心身の健康・国際性」の育成を通して、「笑顔いっぱい 一人一人が かがやく学校」を目指している。教育活動の展開において、言語力（コミュニケーション力、語学力）と探究力（問題解決力、情報活用力）の資質能力の育成を目指している。

(3)児童生徒の実態から

本校は児童生徒の転出入が多く、5年以上在籍する児童生徒は少ない。小学1年生から一部教科担任制を導入し、派遣教員は2～4年で入れ替わるため、児童生徒を取り巻く環境は変化し続ける。友だちとの出会いと別れ、単学級・少人数でのきめ細かい指導、異学年との交流を通して学校生活を送っている。本校の児童生徒は素直で落ち着いており、平均して学習能力が高い。特に英語でのコミュニケーションがよくできる児童生徒が多い。

しかし、豊かな生活環境が原因なのか、素直で学習能力が高いのが原因なのか、与えられた課題には取り組むことができるが、指示待ちの児童生徒が多く、主体的に課題を見つけて考えることができる児童生徒が少ない。さらに、学力で二極化の傾向も見られ、協働の必要性を感じていない様子がある。そこで、自分で「決める」手立てとして導入や発問、自分たちで「考える」手立てとして場面設定やICT機器の活用方法を工夫することで、主体的で協働的な学びができる児童生徒を育成することが可能になると考える。

以上から、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒を育むために自分で「決める」学び（個別最適化な学び）自分たちで「考える」学び（協働的な学び）が重要であると考え、研究主題を『主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～』と設定した。

3 研究のねらい

自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒を育成する方法を追究する。

4 研究の仮説

授業を通して、自分で「決める」/自分たちで「考える」学びの機会を設定すれば、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒が育つだろう。

5 研究の内容

(1)「主体性を引き出す」の捉え方

工夫した課題、考えて取り組むことができる場面設定によって、児童生徒が自ら課題意識を持ち、「考えたい」「話し合いたい」「伝えたい」という思いを引き出すことが必要である。つまり、見通しなく進めたり教師が進めたりするのではなく、本時は何に取り組むのか振り返りをもとに考え、自分たちで授業を進めることができる授業展開を組み立てることである。そして、全ての児童生徒が心の底から「ああ、おもしろかった」という言葉が自然に出てくる授業や自然に学習が進んでいく授業を目指していく。このように「主体性を引き出す」とは、「児童生徒が自ら学習に向かうために課題や場面設定、授業展開の方法を工夫すること」と捉えた。

(2)「協働的に追究し続ける」の捉え方

課題解決のために一人ではなく、二人以上で課題について考え、各々の能力や経験を活かし、試行錯誤しながら解決方法を考えることで、さらに思考が高次化していくと考える。そのためには、児童生徒が自ら互いの良さを認め合い、協働になることの必要性を感じる事が大切である。「協働的に追究し続ける」姿とは、「自分の考えと異なる考えを認め合ったり、課題解決後も更に深め合ったりする」姿と捉えた。

(3)「自分で決める/自分たちで考える」の捉え方

自分で「決める」とは、やってみたい気持ちをもとに、自分から「なぜ?」と考えたり、分からないことを質問したり調べたり自主的に学習に参加することである。児童生徒が経験を振り返ったりこれからを見通したりしながら、自ら目標を立て、取り組んでいけるよう教師が指導を工夫していく。例えば、到達目標に対し目標を自分で決めること、導入や発問に対して自分の納得解を決めることなどである。

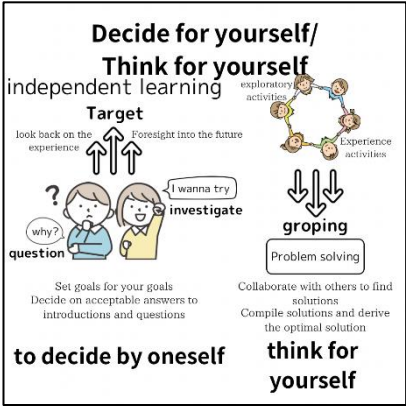
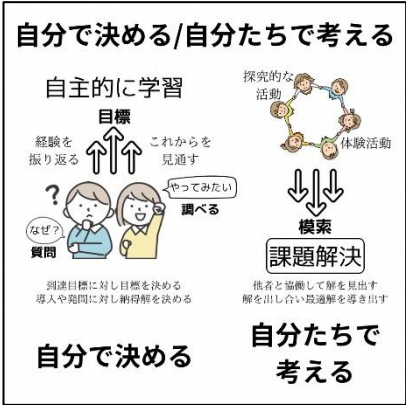
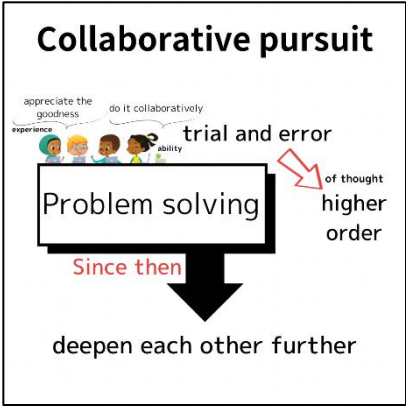
自分たちで「考える」とは、探求的な学習や体験活動などを通して、課題解決の方法を模索することである。その中で、多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重していくことが大切である。ICTを活用した学習活動も積極的に取り入れるなど、授業改善をしていく。例えば、課題解決に向けて他者と協働して解を見出していく活動、見通しをもとに各々の解を出し合い、最適解を導き出す活動などである。

上記を発達段階に応じて導入や発問、場面設定や学習活動を工夫していくことにより、本校の目指す「高い意欲をもって、主体的に学ぶ児童生徒の育成」「試行錯誤しながら、挑戦し続ける児童生徒の育成」「自他の考えを認め合い、他者と協働して課題を解決する児童生徒の育成」につながっていくと考えた。

校内研究

6 目指す児童生徒像

全 体	自分で「決める」自分たちで「考える」学びを通して主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒
-----	---



7 計画

校内研究・研修の見通し

1/2024訂正

校内研究担当：頼賀

年間計画	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学校行事等	始業式 入学式 全体懇談会	NRTテスト 学校参観日 現地理解講座 校内研修① 12 日		KHDA サファリ(仮)	夏季休暇	校内研修②③ 1 日、22 日	熱沙祭	学校参観 校内研修④ 17 日 砂漠キャンプ	デイキャンプ 冬季休暇	運動会	KHDA ? 校内研修⑤ 16 日	卒業式 修了式 全体懇談会
校内研究	研究主題決定 テーマ決定 学習のきまり作成 カリキュラム・マネ ジメント見直し 年間計画作成 研修計画作成	研究概要作成 研究授業決定 カリキュラム・マネ ジメント開始 大型研修 (UAESS)			AED研修	大型研修 (NRT分析・学校評 価)	大型研修 (特別支援)				研究の成果と課題 次年度の研究検討会	研究集録発行
研究授業			重堂先生		後藤先生	竹内先生	藤村先生	頼賀			繁田先生	
情報教育	ICT研修-teamsの使 い方 年間計画作成 タブレット使用のき まり作成 ネットモラル教育	ICT研修 ・スズキ校務の使い 方 ・ロイロノートの使 い方	ICT研修 ・ Kahoot ! ・ 成績処理	ICT研修 ・ Canva ・ Forms ・ Planner								
ミナレ学習 UAESocialStudy	ミナレ学習確認 UAESS年間計画見直 し・作成 校外学習報告資料作 成	探究課題決定 (内容確認) UAESS紹介 (活用状況) 校外学習報告	ミナレ情報交換 (進捗状況) UAESS紹介 (活用状況) 校外学習報告									
MoralEducation	UAEの概要 ラマダン 祝日	首長国・首長 地形的特徴 貨幣・77ビ7語	道徳との関連 UAE文化の理解									
特別支援教育	個別支援計画 個別の指導計画 作成	支援を要する児 童生徒情報交換 会	第1 回特別支援 委員会				第2 回特別支援 委員会				第3 回特別支援 委員会	

校内研究

8 研究の概要

- (1) 研究レポートの発行
- (2) 一枚指導案の作成—Padletによる個人リフレクション
- (3) 校内研究ワークショップ—協働的リフレクション
- (4) 研究だよりの発行

9 研究の成果

(1) 成果

- ・教材研究を通じて、自然に取り組める環境が整い、過度な負担がなく進められた。
- ・授業を通して、子供たちの主体性を引き出すための手立てを考え、実践を積み重ねた。
- ・子供たちが自分の状況を理解し、自己意識を持つための時間を設定し、主体性を引き出せるように努力した。
- ・多くの先生方の実践を目にできたことが収穫であり、教育の多様性を理解し楽しむことができた。
- ・研究プロセスがポジティブな方向に進んでいき、研究主題に対する意図や思いを知ることができ、自身の実践に生かすことができた。
- ・研究授業や協議が充実し、授業について話合う機会があり、授業改善につながった。

(2) 課題

- ・子どもたちから主体性を引き出すことが今後も課題となる。
- ・教科の特性や時間の制約により、研究主題にそった取り組みが難しい場面もあった。
- ・課題設定において、子ども達の関心を高め、発問を適切に行うことが難しい側面があった。
- ・より多くの授業に参観する機会があればよいという提案があった。
- ・学級経営と教科経営の関連性や継続的な研究についての不足があり、より総合的なアプローチが必要とされる。
- ・全員での授業公開や対話の機会があれば、より深い学びと共有が可能となるだろう。

10 研究のまとめ

今回の研究はそれぞれの教員が、『自分で「決める」/自分たちで「考える」学び』をどう捉えて、どう実践していくかが大きな課題であった。

①学習に関する内容や学びの経験についてのリフレクション

②教師と児童生徒の関係や授業の改善についての学びや気づきのリフレクション

これらのリフレクションから、授業改善や学習効果向上のために教師同士の対話や共有を行うことの重要性、提案や振り返りを通じて教師自身の質の向上や成長、児童生徒の主体性の育成を重視していくことが見えてきた。

参考文献・資料

中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 令和3年1月26日

文部科学省 「在外教育施設未来戦略2030～海外の子供の教育のあるべき姿の実現に向けて～」
令和3年6月3日

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

- ・実験の予想図と、なぜそう思うのかを既習と関連付けて「自分の言葉で」記入・発表をさせることで、次に何をするのか、学習が何につながっているのかを進んで考えられるようにする。
- ・他の意見で参考になるものを記入することで、互いに認め合い協働的によりよいものを追求する姿勢を育成する。



Evidence ▶ 実践データ

G4 理科 すがたを変える水①

名義：14

○水を熱した時のようすを調べよう。

①湯気を調べる：ガラスぼうで ②しけんなどで

◎物を熱した時どのようにあたたまるのだろうか。予想しよう。

熱した時のあたたまり方 → を書いてみよう

空気		ふた
水		あたたまる
金でく		あたたまる

板書だけでなく自分の言葉で記入。
発表の内容で、いいと思ったら色を変えて記入など自分で工夫して書く。



Result ▶ 効果や様子

- ・「発表の際に「同じです」と言って止めることがほとんどなくなった。
- ・「自分ワード」「わかりやすく伝える言葉」への意識が高まり、まとめの言葉を共有することができた。
- ・自分で以前のプリントや前時のまとめを確認することが増えた。
- ・「○がこうだから、△は・・・」「以前にこれがあったから・・・」と物事を関連付けて理由を言える子が増えた。
- ・「次には・・・」「○○を知っている」と積極的に伝え合う場面が増えた。



Reflection ▶ 振り返り

- ・実験の組立は主として教科書通りに行ってきたが、子どもに考えさせて実験を組み立てる流れにすると更に主体的に関われたかもしれない。(時数上の問題)
- ・実験を通して、身近な事象(雨などの気象、水や火、空気について)への興味関心が高まり、知っていること・知りたいことを話す児童が増え、理科好きが増えた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

社会科公民的分野で、経済三主体（家計、企業、政府）から一つ選んで、演じる学習実践



Evidence ▶ 実践データ

「経済」
ものやサービスの生産と消費によって起こる
お金の流れや人間の活動のこと。
家計、企業、政府を経済の三主体という。

あなたは、政府です

○家計には、何をどうしてほしいですか。また、そうしてほしい理由は何ですか。

○企業には、何をどうしてほしいですか。また、そうしてほしい理由は何ですか。

メモ欄

経済の循環

あなたが主役！！
ロールプレイ、あなたが○○

(生徒の感想から)

今回は、これまで学んできた経済の知識を使って、実際に企業、家計、政府になったとして、より良い経済にするために何が出来るのかを考えるロールプレイをした。僕は今回は企業側に立って、家計と政府に求める要求や逆にどういう要求は答えるのかについて考えた。企業は、家計に対してはさらなる資金の提供や労働の質の向上を、政府に対しては税金を下げ、公共事業を増やすことを要求する。これは、最終的にどの立場にも良い結果になるため、妥当な要求と言える。一方で家計や企業からは賃金を上げるや税金を上げることなどを要求された。これは、企業の要求とは真反対のものだ。このように、**立場によって要求は大きく異なり、場合によっては対立することもある**。これは自分たちが学んだだけではわからない現実だ。また、いつ何が起るのか誰にもわからないのが現実だ。ある日は普通の経済だったのが、次の日には大恐慌が起きる、ということもある。**このいきなりの危機にも対応をしていかなければいけない**。これは、政府も企業も、家計もそうだ。各々が行動をすることで、経済は回るのだ。

今回の**ロールプレイを通して**、今回は少人数だったためおおまかな役割に分かれて行っていたが、もっと大人数でやればさらに細かな役割ごとに出来るのではないだろうか。実際にやって見ることでしか分からないこともあるだろう。このような学び方を今後も続けていきたいと思った。



Result ▶ 効果や様子

- ・「立場によって大きく異なる」との実感＝主体性を引き出したことから生まれる効果。
- ・「ロールプレイを通して・・・」深まる知識内容、考察作業＝協働的追究姿勢への共感。
- ・「・対応していかなければならない」当事者意識。将来にわたって学び続ける姿勢の育成。



Reflection ▶ 振り返り

- ・経済学習のまとめとして、ロールプレイを実施。主体的に関わり、協働して課題の解決を目指す学習が生まれた。
- ・より現実的に即して、実際に運用しているゲストティーチャーの招聘が望ましいと感じた。
(授業者はファシリテーターとなる)

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

5年社会科「情報を生かすわたしたち」の単元において、情報を上手に活用するためのルールやマナーを心がけることを学ぶ。



Evidence ▶ 実践データ

NHK for school「そのニュース広めて大丈夫？～フェイクニュース～」を見て

世の中にはフェイクニュースが、流れていて、人が悪質にやった場合もあるし、間違えて送った、または、嘘だと気づきだそうと思って送ってしまった場合がある。しかし、フェイクニュース全てが悪いわけではないが、どれが正解(本当)か、どれが不正解(嘘)なのか見分けていくことが大切である。

技術が発達している現在では写真などを合成して動画をつくったりしている。フェイクニュースにだまされないには、他の情報を見て同じことを言っているのかをたしかめたりするのが大切。

この番組を見て分かったこと

- ・発信元や〇〇によるとの公式サイトなどを見るとフェイクニュースなどに振り回されにくくなる。
- ・〇〇会社などでもすぐ信じてはいけない。
- ・フェイクニュースは技術が発達するにつれて判断するのが難しくなる。
- ・国民を安心させるためフェイクニュースを出すこともある。

「フェイクニュース禁止か自由か」

フェイクニュースは「禁止すべき」の理由

「フェイクニュースの技術が発達したことにより、人が騙しやすくなっているから、その騙された人が、他の人に伝えたと、そのうそがひろがってしまえば、その伝えた人(最初の人)も伝えられた人(犯人)が犯人あつかいになってしまうから、いけないと思います。」

フェイクニュースは「自由に発信していい」の理由

「人を楽しませるためだったりするのだったらいいけれど、動画なら最後や最初に、『これは、フェイクです。』とつけたり、SNSでも『フェイクです。』とつけたり、『〇〇の技術で画像をこんな感じにしました。』などと、フェイクと見る人に伝えるならいいと思いました。」

授業後の感想

発信する側も受け取る側も努力が必要だと思います

技術がどんどん上がって行くにつれてフェイクの技術も上がるから、発信する側は誤解の内容に工夫をして、受け取る側は信じすぎない様に決めつけない事が大切だと思います。

発信する場合、「フェイクです」とつけたりする事が必要。



Result ▶ 効果や様子

- ・個人で賛成意見・反対意見両方を考えさせることで、多様な相手の考えに納得する場面が多くなった。
- ・情報の発信の仕方や受け方について、しっかりと考えることができた。
- ・具体的な場面を考え、実際の状況に合わせた行動を考えることができた。



Reflection ▶ 振り返り

- ・課題設定を明確にすることで、児童の思考を整理させることができた。
- ・ロイロノートの活用で一人一人の考えを公開し、それを元に議論できることで学習が深まったと思う。
- ・情報モラル教育に関わることなので、担任との連携もあるとより効果的な学習になったと思う。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

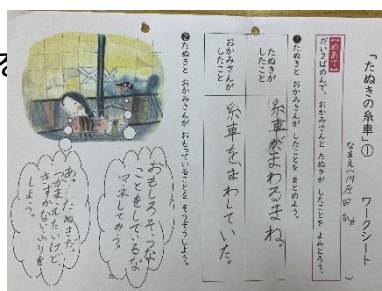
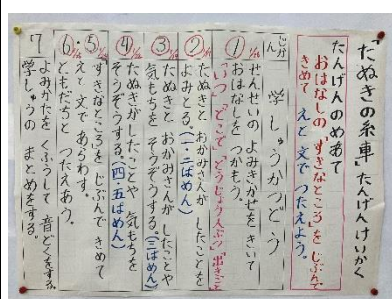


Implementation ▶ 実践したこと

国語科物語文の学習指導を通した主体的・協働的な学習指導の工夫



Evidence ▶ 実践データ



【単元計画の工夫】

単元のねらいを自分で「決める」自分たちで「考える」学びが実現できるように設定し、そのための単元計画を作成した。単元計画を確認しながら進めることで児童が見通しをもちながら学習をすすめることができる。

【思考を深めることができるワークシートの活用】

児童の実態にあったワークシートを作成した。考えさせたいところについて、挿絵を入れたり、吹き出しを入れたりして、登場人物の心情に迫る思考を促した。またその後の協働的な学びへとつなげることもできた。

【協働的な学びを通した深い学びの実現】

「深い学び」を実現するために、叙述をもとに、登場人物の行動や気持ちを想像しながら学習を進める協働的な学習活動を計画的に行った。互いの意見や考えを交流することで、自分の考えを広げることができた。



Result ▶ 効果や様子

- ・「単元のねらい」や「単元計画」を視覚化することで、見通しをもって主体的に取り組むことができた。
- ・児童の実態や本時のねらいに沿ったワークシートを活用することで思考を深めることができた。
- ・本時のねらいに迫るための協働的な学びの場面を意図的計画的に設定することで、他者の考えを受け入れ、自分の考えを広げることができた。



Reflection ▶ 振り返り

本単元のねらいは、児童一人一人が「好きのところ」を見つけ、伝えあう言語活動に設定した。物語の中から自分自身で「好きのところ」を決めることは、主体的な学びにつながる。また、一人一人の「好きのところ」が異なるからこそ、なぜそこを選んだのか児童同士で対話する必然性が生まれ、協働的な学びを通して自分の考えを広げ、深い学びへとつなげることができた。単に「好きのところ」を見つけ、伝えあうだけでは深い学びとは言い難い。日々の学習指導の中で、物語の叙述をもとに、登場人物の行動や気持ちを想像しながら学びを深める。そして、その上で「好きのところ」を決めることが本単元の重要な点であると感じた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

研究主題（副題）を意識して、また、他の職員の実践も参考にしながら、普段の授業づくりや行事への取り組みなど、日常の実践に努めた。



Evidence ▶ 実践データ



Result ▶ 効果や様子

意図的に、継続して実践することで、研究主題（副題）に沿った、目指す子供像により近づけた（子供達の成長や前向きな変化）と感じる一年間だった。次年度、研究主題は変わると思うが、今年度の積み重ねを継続していきたい。



Reflection ▶ 振り返り

今年度の校内研究を通して、新鮮なもの（例. Padlet を使用した振り返り）が多く、取り組む中で勉強になったのはもちろん、非常に面白さを感じる事が多かった。また、令和の授業スタイル（現学習指導要領で求められているもの）のようなものを、研究・研修を踏まえて、自分なりに構築できたことも大変財産となった。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～




Implementation ▶ 実践したこと

算数で学習計画表を準備し、グループ進度学習で主体性を引き出した。
日々の授業で協働的な学習が自然にできる環境を整えた。



Evidence ▶ 実践データ

学習計画表		名前	
15	□を使って場面を式に表そう 〔□を使った式〕	下 p.50～57, 127	4 時間
【学習の目標】未知の数量を表す□を用いて数量の関係を式に表すことを理解し、数量の関係を式に表したり、□に数をあてはまる数を探し、正しい表現で数量の関係を表したり、式の意味を読み取ったりする力を身につけ、式を考えた過程をふり返り、これからの生活や学習に活用する。			
時	ゴール	学 習 活 動	ふり返り
1	・未知数があっても□を用いると文の通りに式で表せること、その□にあてはまる数の調べ方を理解する。 下p.51～54	①文に沿って、未知数□を用いて、加法の式に表す。 ②表した式について、線分図を使って場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数のもとめ方を代入法や図を使って考える。	月 日 () ゴール・協働できたか
2		①文に沿って、未知数□を用いて、減法や乗法の式に表す。 ②表した式について、線や数直線を使って場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数のもとめ方を代入法や図を使って考える。	
3	・□の式から問題場面をつくる方法を□を用いて問題場面を式に表したことをもとに考え、説明することができる。 下p.55	①イラストを見て、場面をとらえる。 ②それぞれの式で、□が何を表しているのかを考え、式にしたがって問題をつくる。 ③できた場面を、式と対応させて確認する。	月 日 () ゴール・協働できたか
4	・学習内容の定着を確認し、見方・考え方をふり返る。 下p.56～57	①「たしかめよう」に取り組み。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組み。	月 日 () ゴール・協働できたか
・【チャレンジ】P.127の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容をもとに未知の数量と逆思考について理解を深める。			



- ・算数は全単元で学習計画表を使用
- ・常に会話ができるよう、グループの席
- ・国語の計画は児童とともに作成



Result ▶ 効果や様子

- ・ゴールを示すと、『自分のめあて』を自分で決めて学習できる。
(マラソンのイメージ。ゴールは同じだけれど、走り方は自分で決める)
- ・学習計画表は指導書の単元計画表を少し作り変えるだけ。
- ・実態に応じで環境を整えると、自然に会話が進み、協働的になる。



Reflection ▶ 振り返り

一斉授業に戻ってしまった現代の教育を打破したい思いが強く、友だちと一緒に学習をする良さを子どもたちに伝えてきた。授業のまとめは学びを止めてしまう可能性を考え、オープンエンドにするには勇気が必要だったが、これからは教師が授業をつくるのではなく、子どもが授業をつくる感覚を大事にしていきたい。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

○国語科「クラスみんなで決めるには」で学習した話し合いの仕方を、特別支援施設に訪問する際の活動に生かし、より現実的な話し合いにした。(主体性)
○国語の授業を含め、計3回の話し合いを実施し、全員が進行係と意見を言う係の両方を経験するようにした。また、それぞれの話し合いの後、役割ごとに必ず振り返りをして、出た意見を共有した。(協働的)



Evidence ▶ 実践データ

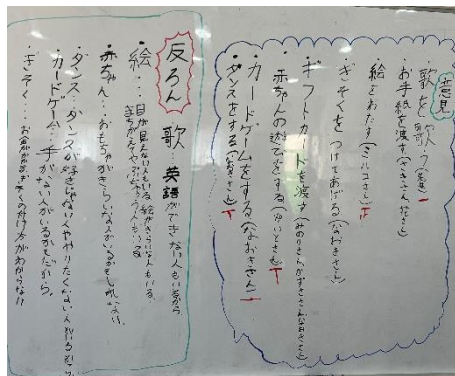
(写真や資料などのデータを貼り付けてください)



↑ 進行チーム



↑ 意見発表



↑ 記録・板書



← 進行チーム反省会



Result ▶ 効果や様子

- ・意欲的な取り組みが見られ、話し合いを楽しみにしている様子があった。
- ・それぞれの話し合いの後に振り返りを行い、出た意見を共有することで、前回の反省点などを次の話し合いに生かすことができた。



Reflection ▶ 振り返り

- ・役割があるということは、責任感や主体性を引き出すのに効果的。
- ・役割を交代していくことも、前任者のやり方を見て学ぶという効果が期待できる。
- ・より生活に即した設定にしたり、決定したことを実行に移したりすることが主体性につながる。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

- 自分で「決める」ために、自分の状況を把握する場面を設定した。自分の分かり方（自分らしさ）への自覚を促した。
- 自分たちで「考える」ために、課題を焦点化し集団検討場面を設定した。他者との違いを知り、自分以外の思考（違う自分）への理解を進めた。

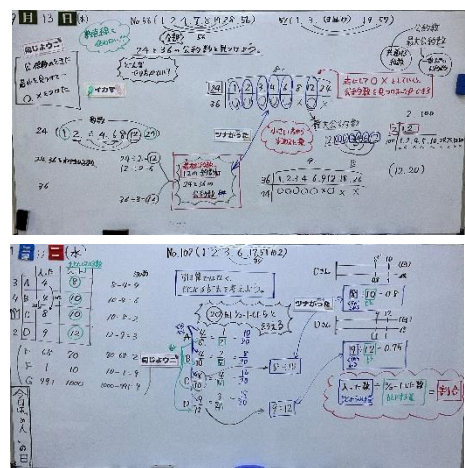


Evidence ▶ 実践データ

【授業の中での実践】

- ◎自分の状況把握
 - ・選択肢から選ばせる、わかる所を表出させる
- ◎課題の焦点化
 - ・間違い、困り感、分からなさを中心にする
- ◎自分らしさの自覚
 - ・子供の思考を見える化
- ◎違いの理解
 - ・他者の思考を取り入れる
- ◎新しい自分へ
 - ・学び方を振り返る

【子供の思考を見える化】



Result ▶ 効果や様子

- ・自分の状況を把握することで必要な学びが見通せるようになった。
- ・自分の思考の仕方の特徴（得意）を知るきっかけとなっていた。
- ・他者の思考から、新しい思考の仕方を学び取る様子が増えた。
- ・集団で学ぶことの価値に目を向けることができるようになった。



Reflection ▶ 振り返り

子供一人一人の自分らしさを表出させるために、「揃える」ことを減らした。実践を通して見えてきたのは、分かり方の違いや思考の仕方の違いだった。自分らしさと他者らしさ、様々な状況が混在するからこそ、集団で学ぶ価値があると改めて実感できた。今年度の研究を経て、自分も他の先生の思考の違いを知り、それを取り入れながら学ぶことができ充実していた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

【国語】説明文のプレ教材「笑うから楽しい」を使って、児童が既習事項をもとにした「読みのポイント」についての授業を行う。



Evidence ▶ 実践データ

(写真や資料などのデータを貼り付けてください)

<p>めあて：「笑うから楽しい」のゲームで読者を考えて実際にやってみよう。</p> <p>①「笑うから楽しい」を正しく読むためのポイントをゲームで決める。 ②それに沿って実際にどう読むかを考える。 ③必要な資料を作成する。 ④発表が必要とする。(授業時間5分)</p> <p>【読みのポイント】</p>	<p>二班 ポイント 読みながら筆者の主張を読み取る。 ・「楽しいから笑う」をあえて「笑うから楽しい」 にすることで主張がよくわかる。 ・①を音読 ・4段落に主張があるのでは？ ・心と体は密接に関わり合っている。</p>	<p>四班 ポイント ①筆者の考えを読み取る 段落ごとに分けてみたりする ②題名から内容を考える 題名から何が書かれているか ノートにまとめてみる</p>
---	--	---



Result ▶ 効果や様子

- ・説明文に対して苦手意識がある児童も授業づくりに対して主体的に取り組む姿が多く見られた。
- ・既習事項の確認を、児童主体のグループでの話し合いですることができていた。
- ・学びへの自信を持って、本教材でも自分たちで読みを進めることができていた。
- ・本教材である「時計の時間心の時間」では、単元テストの平均点が 95.8 点と基本的な読みの力が習得できていた。



Reflection ▶ 振り返り

- ・既習事項を確認する方法として、授業づくりをすることが有効であると感じた。算数の単元のまとめや学年末のまとめの単元などでは、同じように授業づくりをさせていきたい。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

キャリアレクチャー



Evidence ▶ 実践データ

○当日の流れ（2時間目から2コマ使う）

時間	生徒と講師の動き
9時20分	生徒は全体会準備； G7教室（着席完了）
9時25分	講師の方がチームG7内の「キャリアレクチャー」チャネルの「全体会」の会議に参加する。 講師の方の紹介と挨拶（校長より） 全体会終了後その会議から退室する。 各担当がそれぞれの講師の方別の会議を開始するので、そこに講師の方に入っていく。
9時35分	【1回目のレクチャー開始】 ・はじめの言葉（各グループの代表生徒が発言する） ・お礼の言葉（各グループの代表生徒が発言する） ※早めに始まって早めに終わった場合はロイロで感想を書く
10時05分	1回目キャリアレクチャー終了 講師の方が会議のマイク・ビデオをオフ ドバイタイム（中休み10分間）
10時15分	休み時間終了
10時20分	2回目の教室へ生徒移動（着席完了） 準備をする
10時25分	講師の方が会議のマイク・ビデオをオン
10時25分	【2回目キャリアレクチャー開始】 ・はじめの言葉（各グループの代表生徒が発言する） ・お礼の言葉（各グループの代表生徒が発言する）
10時55分	2回目キャリアレクチャー終了
11時00分	生徒は教室へ行き、感想を書く。
11時15分	3時間目終了



企業名 前川製作所(MYCOM)

メンバー 優 大和 海翔

簡短内容① 社員人数 5000人
(半分为海外で働いている人)
商業用機械などを開発・製造・販売している
海外に100ヶ所拠点
60年前から海外と関係があった
各都道府県にほぼある
来年100周年

前川製作所



MAYEKAWA

前川製作所は東京都に本社を置く、機械メーカーで、産業用冷凍機、ガスコンプレッサー、食品加工機械等を中心に製造・販売、国内外に多数の拠点を有している。



Result ▶ 効果や様子

- ・ 商社や出版社などカテゴリーの違う職業について、それぞれの専門の講師からレクチャーを受けることができた。具体的な話を聞くことができた。
- ・ 中学生のうちに身につけるべき力や今できることを確認することができた。
- ・ マナー、丁寧な言葉遣い、話の聞き方等、様々なことに気を配り、緊張感をもって取り組めた。



Reflection ▶ 振り返り

- ・ 学校近くの企業の方には、オンラインではなく実際に来ていただくという方法を取れるとより効果的だった。
- ・ 少人数グループでレクチャーを受けたことで、一人一人が発言する機会をつくることができた。発表でも、全員が重要な役割をもって取り組めた。
- ・ 自分の将来についてより具体的に考える機会となった。
- ・ 講師の先生の講和の中に、社会との関わりやSDGsへの取り組みなど、他者や地球環境について考えることの大切さを学ぶことができた。「金銭的な利益」にこだわる生徒が多かったが、気持ちの変動が見られた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

ロイロノートを活用した効果的な学習



Evidence ▶ 実践データ

14:40 2月9日(金)

終了

編集

①七芒星の五角形の内角をすべて足すと、 $\angle H$ の対頂角と同じ。
②同じ五角形は $a+c+(b+c+d)$ を 180° になる。
③だから、五角形の角をすべて足すと、 180° になることが分かる。

$\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$

紙飛行機型の図形を赤でなぞり、角 $a+c+e$ は角 I の角度で、その対頂角は角 X なので、角 X も abc になる。三角形 BJD の中に、角 $bced$ (星型の先端) が全て入っているの、
 $\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$ になる。

中井 晴日

石丸 優

180 x 8 = 1440
1440 - 540 = 890
180 x 5 - 540 = 360
890 - 360 = 530
530 - 350 = 180
 $\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$

前田 恵蓮

$\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$

花田 通仁



Result ▶ 効果や様子

- ・特に図形の分野においては、補助線を入れたり、消したりがしやすいので思考しやすいと感じた。
- ・簡単に交流ができ、上の図のように特定の意見を比較して並べることもできるのでとても効果的



Reflection ▶ 振り返り

- ・今年度初めて使うツールであったが、校内研修が充実していたおかげで、とても自分自身の向上につなげることができた。とても感謝しております。
- ・ICT 機器を使うことは時間効率を上げるだけでなく、生徒の意欲や思考を高めることにつながる。


Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

Implementation ▶ 実践したこと

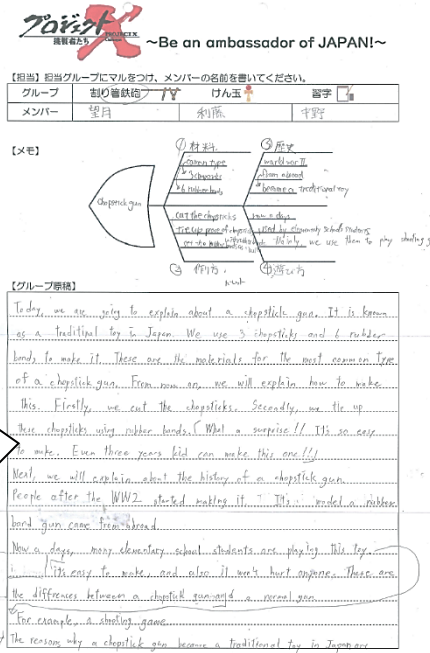
現地校交流でのコミュニケーションを目標とした、日本文化紹介の単元

Evidence ▶ 実践データ



①単元を貫く思いを引き出す場面設定
「伝えたい」「日本を好きになってもらいたい」という思いをもって学習に取り組めるよう、現地校交流の場を設定した。

②文構成を工夫するためのワークシート作り
より相手に伝わる紹介文にするため、グループ活動や思考ツールを活用した。



Result ▶ 効果や様子

- ・現地校交流という場面を設定したことで、より必要感や切実感をもって学習に取り組む姿が見られた。
- ・思考ツール「フィッシュボーン」を用いたことで、より効果的な文構成にしようと努める姿が見られた。また、グループで紹介文を考える活動を通し、仲間と協力して、よりよい表現にしようと工夫する姿が見られた。

Reflection ▶ 振り返り

伝える機会や伝えたい内容があることで、「正しい表現」から「伝わる表現」、「日本を好きになってもらえる表現」へとレベルアップしていった。また、グループの仲間と協力して作文したことで、互いのアイディアのよさから学び合い、表現の幅を広げることができた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

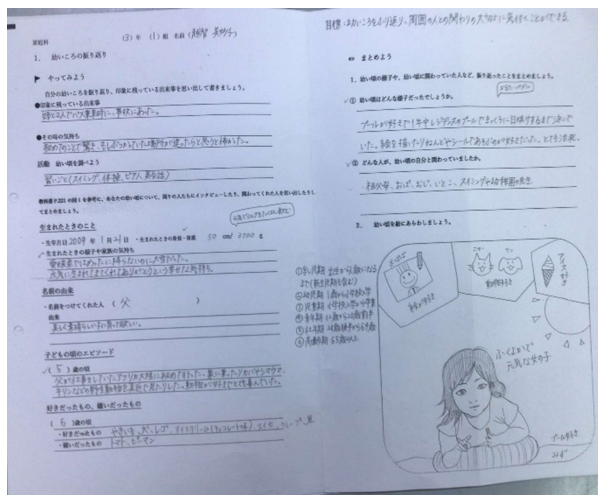


Implementation ▶ 実践したこと

主体性を養うために、まず自分で考えさせた。次に、ペアで考えさせた。更に班とクラス全体で考えさせた。テーマを自分で決めたり班などで決めさせた。自分たちで考えて活動をさせた。



Evidence ▶ 実践データ



Result ▶ 効果や様子

主体的に考えて動いていた。幼児に様子を観察したりできていた。



Reflection ▶ 振り返り

ビデオを見て振り返り、その後感想を各班で発表させた。いい発表ができた。

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

素材づくり

- ・自分で集めた地元の砂と絵具と紙粘土を混ぜて、彫塑制作をした。天然の土を使うところが焼き物の感覚に近づく。
- ・鳥の羽になる材料を自分で染めた。自分で選んだ染料で和紙の染めた。折り染めで模様のパターンを探求。



Evidence ▶ 実践データ

粘土づくり 砂と粘土を混ぜての素材づくり



染料を使っの和紙の折り染め



Result ▶ 効果や様子

- ・素材を自分で作ることのできる気が一変する。目が輝き自分事になる。
- ・自分で選んだ染料で和紙の染めることで意欲倍増



Reflection ▶ 振り返り

- ・今後も自然の素材や魅力的な素材と出合わせよう。
- ・自分で素材を選んだり作ったりすることを積極的に取り入れよう。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 G2/体育科	児童生徒観 <ul style="list-style-type: none"> 各教科において、協働の経験を少しずつ積み重ねている現状である。 協働的な学びの跡を視覚化や内省する意味でも、ロイロノートの活用場面を設定する。
単元／教材名 多様な動きをつくる運動遊び	
実施日時／授業者 2023年6月15日／氏名 重堂 真也	
単元の目標 <ul style="list-style-type: none"> 色々な動きをすることができる。(知・技) グループで協力して考えたことを、他者に伝えることができる。(思・判・表) 場の安全に気を付けることができる。(学びに向かう力、人間性等) 	教材観 <ul style="list-style-type: none"> 単元を貫いて、(教具も活用しながら)多様な運動遊びを経験させてきた。 本単元と生活科の単元(一年生と遊ぼう)を教科横断的に実施してきた。 図工(創作活動)が大好きな子供達の実態も踏まえて、本時を設定した。
単元指導計画 <ul style="list-style-type: none"> 毎時間、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動きなどを行う。 	

見どころ(指導観)～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～

- 「決める」・・・指導者の指示・説明は最小限に、子供達の主体性を引き出す授業展開。
- 「考える」・・・既習事項も参考にしながら、仲間と協働し自分達で創り上げる活動。

《本時》

本時の目標「多様な動きを取り入れたスポーツコースを作ることができる。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 本時のめあてを確認する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあて(①色々な動きを取り入れよう、②グループで協力して考えよう、③安全に気を付けよう)を提示する。
2 ★グループに分かれて、スポーツコースを作る。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> 指示・説明は基本的に行わない。 評価(知・技、学び、人間性)
3 (ロイロノートで)自分達のコースの説明動画を撮影する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 評価(思・判・表) (参観される先生方へお願い)
4 (提出された)各グループの動画を、全体で視聴(確認)する。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りに繋げる視聴(確認)の仕方を説明する。
5 (ロイロノートで)本児の振り返りを行う。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの観点(自分達のグループの良かったところ、やってみたいと思ったグループのことなど)を提示する。 (参観される先生方へお願い)

※ロイロノートの活用はまだ慣れていない子供達です。参観される先生方には、必要に応じてT2のような支援をしていただけると幸いです。

子供達(と指導者)にとって、せっかく参観される先生方とも協働の1時間にできればと考えています。

※授業後、先生方には「どのグループのコースをやってみたいと思ったか」感想を『ロイロノート』→『研修』→『G2 公開授業 先生方の

感想』に提出をお願いします。(ポイントは、めあての3つをクリアしているかです。いただいた感想は、後日子供達に提示させていただきます。)

Grade 2 重堂 箇条書きリフレクション

- ・紙面上で考えたものを実際に取り組むことができるのは面白いと感じていたようでした。
- ・子どもたちが「他のコースを遊びたい」と言っていたことから課題設定がよかったと思います。
- ・（規模が大きくなるので）全員で1つのコースを作らせると楽しいのではないかと思います。
- ・整頓されていない適当に障害物を配置したコースをどう遊ぶかを考えたり、それをマイナーチェンジしたりするのも面白いと思いました。
- ・子どもたちが主体的にいきいきと活動している様子がとても印象に残りました。日常的に協働的な学びを設定されており、その積み重ねが今回の授業につながっているのだと思います。
- ・指導者の指示や説明が非常にシンプルで子どもたちの意欲をうまく引き出すことができていました。児童に委ね、児童同士で協働的に創り上げている姿を見て、同じ低学年ですが非常に参考になりました。
- ・子どもたちもそれぞれに思いを伝えあっていて、その雰囲気があるからこそ「もっとこうしたい!」とさらに協働的な深まるのかなと感じました。
- ・本時のめあてを子供たちがよく意識できていたと感じました。
少し遊び始まってしまう子がいたら、「協力し合うんだよ」などと声をかけていました。
- ・一つ一つの指示が丁寧で、小学生への伝え方について、とても勉強になりました。
- ・まさに「決める」場面と「考える」場面の設定がなされている授業でした。自分の教科にどう生かしていくか考えていきたい。
- ・タイマーを使ってはっきり時間が分かる形で活動していたので、活動のメリハリがついていた。
- ・活動が魅力的。児童のワクワクした表情と生き生きとした姿が輝いていた。
- ・コースづくりは紙媒体で、ビデオの提出はロイロで等、使い分けが児童に合っていた。
- ・マイペースな児童が、コースづくりを完成させるために黙々と荷物を運んでいたのがよかった。半面、チーム4人で協力して運んだ方が早くて安全だと思う場面があった。安全面は教師主導にしてもよいと思った。
- ・時間設定があったので、その中で何とかしなければ、という気持ちが子ども達の中に自然に生まれていたと思う。協働的な姿が見られた。
- ・道具を選び、組み合わせるという活動は、何通りもバリエーションが考えられ、思考力・判断力の育成に役立つと思った。また、同じ道具を使っても使い方が異なる点がおもしろい。
- ・考えたものを実際にやってみたい、という気持ちが今後の学習につながっていくと思う。
- ・振り返りの場面で、他のグループのやつはどうだったっけ、と動画を見直している姿があった。録画の便利さを感じた。
- ・今回の活動は、これまでの生活科学習と関連させて「G1 のために」という副題を持たせるか迷った。
そうすることで、さらに研究テーマ（主体的・協働）に沿ったものになるかもしれないと考えたから。
- ・研究テーマ（主体的・協働）へ迫るための、指導者である自分と G2 学級の次のステップ（課題）は「振り返りの持たせ方・活かし方」だと考える。2 学期中盤くらいに、自分が現時点で構想するスタイルまで持っていけたら良いとゴールイメージを抱いている。こちらトライ & エラーで引き続き実践していく。
- ・自分たちの発想で主体的に行動する子どもたちの姿が見られ、先生の意図されたことが伝わりました。

設置しながらよりよいものにしようと互いに協働する子どもたちの様子から、これまで先生が学級づくりで何を大事にされてきたのか、何を積み重ねて来ているのかがよくわかります。4月から子どもたちの様子を見させていただいていますが、着実に力をつけていることがわかり、先生の指導の確かさを感じます。ロイロノートの活用一つをとっても、生活科や国語、他教科で使い慣れていることが伺えます。本当にありがとうございました。

※以下は質問です。

- ・「いろいろな動き」を子どもたちに落とし込む際、どのような指導を行ったか
例：走る、とぶなど動きを全部入れよう、とか、授業でやってきた運動を想起させた、とか・・・どのコースも偏りなく動きが入っているように見えたので
- ・一人で行うコースや、二人で行う・三人で関わる動きを入れたコースがあったが、これは子どもに任せたのか（大人が、スポーツコース、と聞くとアスレチックのように一人で行うものを想定しますが、子どもたちの自由な発想にちょっと驚かされたので）
- ・何か一つのを創り上げる活動の設定自体が協働の必要性につながるものだと感じました。
- ・使う用具を友達と確かめ合う姿も良かった。使える物の限定とその組み合わせ方から相談が必然的に生まれる展開で子供たちは楽しそうでした。
- ・用具の使い方の自由を与えることで子供たちの発想を広げていてより協働が進んだのだと感じました。
（この道具はこの使い方と限定しない良さ）これによって子供たちの「こうしたい」がうまれたのかなと思います。
- ・最初に枠を示したから主体的になったのかもしれない。
- ・「リーダー」の響きだけで前向きになる。
- ・コースをつくる場面で同じ思い（こうしたい！という思い）になれば、協働になると感じた。思いを伝えることが大切
- ・スーパーマリオメーカーのようで面白かった。クリエイトする活動は体育以外でも取り入れられると思う。
- ・つくる→紹介までだったが、このあとはやってみる→改良すると続きそう。自然に運動技能が向上されると思った。
- ・指導案の単元の目標（色々な動き、伝える、場の安全等）を自然に達成できるような課題だと感じた。
- ・指導者の指示説明を最小限にすることで主体性が引き出せるということが分かった。
- ・自分達で創り上げることで子供たちが協働的に活動できると思った。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 G 8／国語	児童生徒観
単元／教材名 漢詩を読み味わう／漢詩の風景	・漢文は中1で「矛盾」を学習。漢詩は小5のときに音読した程度だと思われる。
実施日時／授業者 2023年8月30日／氏名 後藤麻美	・漢詩（漢文）という日常生活では使わないものを学ぶことに対し、好意的な意識を持ってほしい。そこで単元の初めと終わりに「1300年前の中国の詩を私たちが勉強するのはなぜだろう」という問いを提示し、その答えの変容を見たい。
単元の目標 漢詩を読み、古代人の心に触れ、その魅力について考える。	教材観
単元指導計画 ①問いに対する初めの考えを持つ。漢詩のきまりを学ぶ。 ②三つの漢詩の暗唱。「春曉」読解。 ③「絶句」「黄鶴楼～」の読解。自分の好きな詩を一つ決める。 ④漢詩の魅力について語り合い、問いに対する最終的な答えを考える。	・唐代の代表的な詩人の有名な詩を三つ扱う。 ・「春曉」は寝坊という点、「絶句」は帰りたくても故郷に帰れないという点、「黄鶴楼～」は友との別れという点がそれぞれ生徒の共感を呼ぶと思われる。 ・漢詩の音の響きの美しさ、構成や表現の妙、時と国を超えて共感できる部分などに魅力を見出せるだろう。
見どころ（指導観）～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～ ・単元の問い（「1300年前の中国の詩を私たちが勉強するのはなぜだろう」）に対する納得できる答えを見つけるために、自分の好きな漢詩とその魅力についてグループで話し合う活動。	

《本時》④

本時の目標「好きな漢詩を一つ選び、表現や句を引用して理由を述べ合うことを通して、漢詩の魅力についての考えを持つ。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 漢文訓読と書き下し文の練習問題をやる。	・白板に練習問題を書く。
2 漢詩三つの音読をする。	・白文を画面に映す。
3 3人グループで①自分の好きな漢詩とその良さについて語り、②漢詩の魅力についてグループの考えを出す。★	・前時に書いたワークシートを用いる。 <u>評価：好きな漢詩を選び、表現や句を引用して理由を述べられたか。</u>
4 各グループの考えを代表者が発表する。（②のみ）	【思判表 読む（1）エ】「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や展開、表現の効果について考えること。」
5 「1300年前の中国の詩を私たちが勉強するのはなぜだろう」という問いに対する自分の考えを書く。	・②は3つとする。 ・各グループの意見を板書する。 ・各グループから出た意見を参考にロイロノートに文章で入力するように言う。

Grade 8 後藤 簡条書きリフレクション

- ・子どもたちが主体的に深い話し合いができていた姿に感動しました。話し合いが一方通行にならず具体的な理由も伝えながら思考を深め合える素晴らしい話し合い活動だったと思います。学級内には安心して発言できる雰囲気があり、生徒がイキイキと自らの考えを発言する姿が非常に印象的でした。
- ・最後の学習活動に「中国の詩を学習するのはなぜだろう」と問いを持たせる工夫がされているところが非常に参考になりました。主体的な学習活動にするためには児童・生徒が常に「問い」をもって探究的な活動をすることで学びの深まりが出てくるのだと感じました。ロイロノートの活用の仕方もよかったです。
- ・授業の最後に次回の予告（プレゼン）をされていて生徒が学習の見通しを持つことができ、意欲を高めることができたのではないかと思います。
- ・「なぜ？」という問いがよい。中2にはずいぶん難しい内容だったと思うが、考えたり仲間の意見を聞いたりする経験の積み重ねが大切。
- ・難しい発問だからこそ、一生懸命考えていた。大塚、後藤、塚原、前田のグループを見ていたが、4人それぞれが感心させられる回答をしていた。英語の授業でも、基礎基本や教科書内容をおさえつつ、生徒の実態やタイミングを見て難しい課題も与えていきたいと思った。
- ・時間は限られていたが、自分だったら個人の考えを発表するところまでを本時に入りたい。
- ・グループ内での役割分担が明確で、すべての生徒が活躍できたところがよかった。
- ・ロイロとホワイトボードの使い分けが適切だった。ホワイトボードを共有用に使っていたので、見やすい大きさになるように板書計画を工夫するとよいと思った。
- ・生徒たちが良く考え、良く話し合い、見ていて面白かったです。
- ・単元の課題自体が面白いと思いました。そして、単元の課題を最初と最後で考える活動は、学びを通して自分の変容を知る良い機会になると感じました。
- ・絶対の答えがある問いではないことも生徒たちにとって話し合い考え合う価値を感じるものになっていたように感じました。自分も課題をどう設定するか考えたいです。
- ・グループでの話し合いは、自分たちで「考える」学びだったと思います。
- ・グループの意見をまとめる段階で、どういう意味なのか互いに共有するために対話している様子が素晴らしかったと思いました。特に、「そうそう」「それぞれ」「これであって？」などの声が聞かれ、言いたかったことがはっきりしたり、本当かどうか確かめようとしたりすることが自然と発生していました。
- ・共有の手段として白板・ロイロが効果的に使われていたと思いました。様々な方法があるが、どの方法が目的達成のために効果的か考えていきたいと改めて思いました。
- ・まず題材が、自分が気に入ったものについて語るということで、生徒がみんな前向きであったと思います。
- ・グループ活動において、役割分担があることで、どんな子でも何をすればいいかが明確になっていたようで、安心して生き生きと活動していたように感じました。「自分はグループ活動に貢献できた！」と自己肯定感を高めることにもつながると感じました。
- ・ロイロノートの共有、白板に書いたものを発表するという形の共有、どちらもとても効果的だと思いました。自分も授業で行う共有の仕方なのですが、どういうねらいで使い分けをしているのか、後藤先生の

お考えを教えていただきたいです。

- ・自分が指導者の視点で授業を観察した際、全員が本時の目標を達成できた一時間になったのではと感じました。
- ・最後のロイロに入力した生徒達の考え、何を入力したかとても興味深いと感じました。後ほど共有していただけると嬉しいです。
- ・話し合いでは、どのグループもスムーズに進行されていたのはもちろん、一人一人が自分の考えを伝え、周りがそれを受容し合う協働の姿が素晴らしいと思いました。
- ・今回の授業に「・・・勉強するのはなぜだろう？」とありましたが、小学校段階でも中学校段階でも、様々な場面で「なぜ？」と考えさせる（教師も共に考える）ことが、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓く子供の育成に繋がるのだと改めて考えさせられました。素晴らしい授業をありがとうございました。
- ・学級で学習を作り上げていこうとする雰囲気は、良く、漢詩の授業でこのように思考を深められることが素晴らしいと思いました。
- ・自分の感じたことを自分の言葉でまとめ積極的に述べ合う様子に感心しました。また先生の簡潔な指示にグループ内で役割を持ち合い協力して話し合う姿が印象的でした。
- ・漢詩の授業を参観するのは初めてで、価値ある題材や単元が生徒たちの心に響いていくのだと改めて感じることができました。ありがとうございました。
- ・漢詩の授業、中学生になるとここまで掘り下げられるんだと感心させられました。
漢詩の魅力について交流することを通して、漢詩を学ぶ意味を更に深く考える・・・先生の意図を理解してみんな積極的に授業参加をしていたと思います。
- ・指示のメリハリも良く、プリントに記入させる場面・ロイロを活用して比較する場面など多様な活動を意識しているところが伝わります。
- ・クラスの雰囲気も良く、安心してものの言える環境で、熱く語っている生徒もいて素晴らしいと思いました！

※現代語訳にすると良さが薄まるような気がする、とか、中国語で読み上げる漢詩を聞いてみたい、という意見も耳にしました。

- ・全体での説明の際に感じたことは、「相手意識」があること。例示をして詳しくしたり、周囲の反応を窺ったりしながら説明していました。
～私的なことを言うと、私も漢詩は好きです。李白の「静夜思」は大好きで誦んじられます。異国の地ドバイで月を見る時に、いつもこの詩が浮かびます。先生の授業を通じて、生徒達もそういうお気に入りのことができるといいですね。ありがとうございました。
- ・グループでの話し合いで漢詩の魅力を何かしら見つけようとする姿が印象深かった。
- ・自分たちで「考える」ための問いが「中国の詩を勉強するのはなぜだろう」となっているのが面白い。
大人でも難しい問いと思うけれど、答えを見つけようとする行動で主体性を感じた。
- ・子どもたちが漢詩で響く観点は、色や言い回し（リズムや言葉の響き）や対照で語っていた。そして詩や俳句など対比しながら考えていたのがなるほどと思った。
- ・ちなみに私は、漢詩は同じ文字数で整っていることに魅力を感じる。
- ・今日の漢詩の200年後くらいに平仮名が生まれた？

- ・ 後藤先生の考える漢詩を勉強する理由が知りたい！
- ・ 評価について、本時の評価は「好きな漢詩を選び、表現や句を引用して理由を述べられる」としています。中2国語で求められる【読む】能力はこの部分であるからです。では、その後行っていた「魅力について考える→なぜ漢詩を学ぶのか」をどう扱うか。こちらは【学びに向かう人間性】として考えています。
- ・ 教科書や指導書の例では、好きな漢詩を伝え合う活動で終わりになっていました。しかし、それだけでは何か物足りないと考えて、「なぜ学ぶのか」を考える活動を加えました。その分、生徒達にとっては負担が増したと思いますが、一人ひとりがよく考え、伝え合っていたなと思います。
- ・ 単元を貫く課題を持たせ、はじめと終わりで考えの違いが分かるように書くと変容が見られていました。
- ・ ロイロノートの提出箱で友だちの意見を参考にしながらでも自分意見を書こうとしていました。
- ・ 話し合いで時間が余った際に、より深めようという声掛けがあったのが姿が見られました。
- ・ 音読は、小学部からずしっかりと積み上げをしないといけないなという感じました。
- ・ 話し合いの際に、役割分担（司会、書く人、説明の人）があったので、とてもスムーズな意見交換に結びついたと思いました。
- ・ ホワイトボードに書いた内容に生徒同士で考えた補足の説明をしていて、書いた内容の音読になっていないところがすごいと思いました。
- ・ 話し合いで時間が余ったグループもさらに深めようと話し合う姿がありました。
- ・ 「なぜ勉強するのか」の問いに単元の最初と最後に取り組むことで、自分の考えの変容や成長を先生だけでなく、生徒自身が確認できるのが良いと思いました。また、ロイロノートを活用し、提出箱を公開することでお互いの考えを共有できていて良いと思いました。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 G 9／英語 単元／教材名 Project X ～Be an ambassador of JAPAN!～ ／関係代名詞 実施日時／授業者 2023年9月21日／氏名 竹内朋 単元の目標 現地校交流でホストとして、日本文化（割り箸鉄砲、けん玉、習字）について伝える。 単元指導計画 ① 交流会の計画を立て、役割を決める。 ② 関係代名詞の型・意味・用法を学ぶ。 ③ 日本文化の紹介文を考える。 ④ 日本文化の紹介文を改良する。 本時 ⑤ 交流会の練習をする。	児童生徒観 ・ 現地校交流でホストになるのは初めてである。 ・ 英語でのやりとりを楽しめる生徒が多い。 ・ 他者の考えから学び、自分の考えとすり合わせたり、それをもとに発展させたりすることが苦手な生徒が多い。 教材観 ・ 関係代名詞は、人や物について詳しい情報を加えて説明するときに効果的である。 ・ 関係代名詞の型・意味を理解することには難しさを感じないだろう。 ・ 実際に聞き手に伝えるという経験を通し、より効果的な用法を考えようとするだろう。 ・ 現地校交流という場面を設定することで、より学習に切実感をもって取り組むだろう。
見どころ（指導観）～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～ ・ 仲間の紹介文から学び、グループで紹介文をさらによいものへと改良する姿。	

《本時》

本時の目標「仲間の紹介文から学び、聞き手の立場に立った紹介文を考える。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 ①割り箸鉄砲グループ ②けん玉グループ ③習字グループに分かれ、個人で書いた紹介文を読み合う。 2 個人で書いた紹介文のよさを生かしながら、グループの紹介文を作る。 3 抽出した生徒の紹介文から学び、紹介文を改良するためのポイントを考える。 4 3の活動をもとに、聞き手の立場に立って考え、興味をもってもらえるようにグループの紹介文を改良する。★ 5 グループの紹介文と、4の活動で工夫したポイントについて発表する。	・ 2の活動のために、仲間の紹介文のよさに目を向けて読むように促す。 ・ グループの紹介文の構成を考えると、必要に応じて使えるよう、ワークシートにフィッシュボーンをつける。 ・ 説明だけでなく、聞き手の立場に立って考え、興味をもってもらえるような工夫が必要であることに気づかせたい。 評価： <u>聞き手の立場に立った紹介文を「考える」ことができたか。</u> ・ それぞれのグループの紹介文や、工夫したポイントを認め合う時間としたい。

Grade9 竹内 箇条書きリフレクション

- ・指導案通りに上手に進められていたように思います。
- ・実際にけん玉や習字を使っただけの発表が楽しみです。そこをご指導をして、発表を先生と各自で評価させるのもいいのではと思いました。
- ・「使える」英語が求められて久しい。現実の公立学校にあっては、これは至難の業。身近に英語で会話する人がいないのだから。しかし、ここは違う。またもちろん、竹内先生をはじめ英語教育に携わる先生方のご指導もあって、「使える」英語が生徒に身に付いている。大変すばらしい。
- ・自分から発信する英文を、聞き手の立場に立った内容にしていくということは、一方的ではなく、双方向の交流を求めるもの。英語だけではなく、日本語にあっても大変考察されるべき方法。「コミュニケーション力」育成の大切な視点。
- ・この聞き手の立場の指導をどう行うか。
- ・事前学習の生徒自身の言葉から例示。
生徒目線に立った、自分もできそう、負けないぞ！十分な理解を引き出し、同時に競争心も点火。
- ・日頃の生徒の発言や提出物から、学習材になるものを掘り出す、そのような指導者の視点、力量を意識したい。
- ・ホストとして日本文化について伝える目標を全員が達成できた授業だったと思う。本番が楽しみ。
- ・目的がはっきりしているためにどの生徒も一様に意欲的にとり組むことができていてすばらしかった。
- ・英語でのやりとりが好きで英語力が高い生徒たちが言葉を使って表現するための工夫が随所に見られて楽しかった。
- ・ベースとなる紹介文が各人よく考えられていたと思う。
- ・聞き手の立場に立って紹介文を考える視点での各グループの話し合いが大変有効で、伝えるための表現や言葉が次々と工夫改善されていくのが素晴らしかった。
- ・モニターを使っただけの魅力を伝えるための太字の抽出文の良さがそこにいる全員にちゃんと伝わっていき、‘打てば響く感’に感心した。あの響きがもっと早く示されてもよかったと思う。
- ・内容を考え整理するのにフィッシュボーンが有効に生かされていた。
- ・グループを回って巡視する時の先生のアドバイスが有効かつ適切だった。
- ・仲間の紹介文の良さに目を向けて読むようにとあったので、話し合いがプラス思考で進められたように思う。
- ・文章構成を考える上で、フィッシュボーンを利用することができてよかったと思う。この段階でかなり話し合いができ、文章を整えることができていた。
- ・聞き手に魅力を伝えること、相手のことを考え伝えること、というポイントを伝えられ、さらに内容が深まったように思う。
- ・G9の生徒たちが楽しそうに学習できていたのがとても印象的でした。人間関係づくりの大切さを感じました。
- ・話し合い活動の時の雰囲気がとてもよくて、安心して自分の考えや意見を伝えやすい環境になっていたと思います。その雰囲気があるからこそ、生徒自身がもっと追及していきたいという主体性につながっているのではなかとと思います。安心した環境の中で互いに練り合っていく姿を見て、改めて場の雰囲気の大切さを感じました。また竹内先生の巡視のタイミングも絶妙で、生徒との距離感もよく質問しや

すかったと思います。

- ・テーマが実際に予定されている現地校交流に向けてということで、取り組みやすい題材だったと思います。また、聞き手を意識した紹介文を作るということに焦点化することでより深い学び（生徒の実態にあった学び）にすることができたと思います。
- ・少人数でグループをつくっているため、一人一人が表現する機会が多かった。先生にも気軽に質問できていた。活動の時間がたっぷりと与えられていて、生徒は楽しそうに満足そうに活動できていた。
- ・やっていることの内容がとても高度で驚いた。（ただ説明するだけではなく、相手の気持ちを想像し「伝える」ということ）
- ・TV ロイロノートの太字・黄色の提示で、「あー、そういうことか！」と相手意識にもグッと近づいた！
- ・日本人→日本人と日本人→外国人で感覚や価値観が違うから、EG やアラビックの先生に事前にプレゼンしてみたい！
- ・写真や実物を用いると、さらに意図が伝わるかな？
- ・最後の各グループ発表では、他のグループに対して「これも入れたら、もっと良くなるのでは？」を伝えたい！
- ・「相手を意識し聞き手の立場に立った紹介文」に向けて、主体的に考え、協働的に学ぶ姿が見られてさすが G9 の生徒だと感心させられました。
- ・『割りばし鉄砲チーム』は、メモの活用の仕方が大変良く、一つの文にまとめる道筋が一番はっきりとしていました。また、相手意識が押さえられており、例：『chopstick gun』という名称について「異国感があって相手がわかりやすいのでは」等、聞く人を意識した取組ができていました。
- ・「習字チーム」は、文の構成の流れを効果的にする努力の中で自然と『半紙』って言うても伝わらないよね？」等、伝わりやすさを重視したまとめになってきていました。
- ・「けん玉チーム」は、まとめることに注視していましたが、他生徒の分かりやすい文例を聞いて、改めて必要なことに気づいたようでした。
- ・いずれも、本時の目標である聞く人に興味関心をもってもらうために必要な工夫（伝える順序・魅力の説等）に気づき、協力してまとめようと努力していて良かったです。
- ・授業の途中で二人の生徒の文例を挙げて、分かりやすい説明について想起させましたが、授業の初めに行った方が、生徒が意識できたのでは。敢えて活動の中で気づかせるということを重視したならば、各チームの話し合いの中で随所に意識している発言があったので、それを取り上げても十分理解されたのではないかと思います。（けん玉チームがまとめた後でそりゃないよ・・・と言っていたので・・・）
- ・安心して話し合える空気を感じました。その中で、アイディアの出し合い、そして、一つのものを作ることは、自然と対話が必要となり、「自分たちで考えたい」という思いに繋がると感じました。一つのものを作るためには、互いの考えの意味を共有することが不可欠で、考え合う必然が生まれると思います。
- ・途中で「分かりやすく伝わる例」があったことで、より相手に伝える意識が明確になったと思います。相手意識の視点が示されたことで話すべきポイントが焦点化され、話し合いが活発になったと思います。相手を明確化することは、目的意識を持って取り組むことに効果的だと感じました。
- ・言いたいことが英語で言えない生徒にデバイス OK と言っていたのは、生徒の立場だったらありがたいと感じると思いました。伝えたいという生徒の思いを優先していて素敵だなと感じました。

- ・ 英語を使って相手に伝える時のことを真剣に考えることができていた。
- ・ 友達と協力することで、文法の間違ひを見つけたり、表現の仕方を学んだりすることができていた。
- ・ より良いものを作ろうと、お互いのいい所を尊重し合う姿が素敵だった。
- ・ 日本文化に対する理解もあらためて深まったと思う。
- ・ 途中の先生の指導により、「魅力」を伝えるんだ、ということが明確になって、改善したいという気持ちが生まれた。
- ・ 生徒同士の話し合いだと楽しく、より良い紹介文が作れると思う。
- ・ 実際に発表する場面があるので、真剣に考えることができる。
- ・ 「相手がいる」ことを意識するなど、何をすればいいのかわかりやすかったので取り組みやすい。
- ・ 伝える目的が明確（インター校交流）であると学びにも前向きになることができていたように思います。
- ・ （評価があるとは思いますが）個人で考えてきたものをすり合わせて新しく作るより、最初から1つのものを作りたいなと思いました。
- ・ どのペアも自分の考えと友達の考えをすり合わせてより良い紹介文づくりをしようとしていました。
- ・ フィッシュボーンチャートが情報を整理するのに便利だと思います。
- ・ 意外と「これ清書じゃないから」という先生の言葉は安心できる言葉だった。そうと分かれば、どんどん追究できる。
- ・ 自分が相手に何かを紹介するとき、主観的に良いところばかり伝えがちだけど、客観的に相手はどんな状態になるか考える視点が大事だと分かった。
- ・ 曖昧な文法など、過去の教科書をさっと提示して根拠を示してくれるのが素敵。
- ・ 最初は書き方の細かい部分（スペルミス）に注目しがちであったが、全体の内容に視点が変更していった。それはなぜそうなったのか・・・。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 G3 算数	児童生徒観 ・グループ進度学習をしている。
単元／教材名 円と球 まるい形を調べよう	・形を構成する要素の理解（三角形や長方形）がNRTテストで0%だった。
実施日時／授業者 2023年10月25日／額賀 大	・コンパスの扱いに苦手な児童が若干見られる。
単元の目標 コンパスで等しい長さをはかり取ったり移したりすることができる。	教材観 ・さんかくと三角形の違い、しかくと四角形の違いに続き、まると円の違いを構成する要素に着目し、円の性質を理解する。
単元指導計画 ① 円を構成する要素に着目する。 ② 円のかき方について考える。 ③ コンパスの機能を拡張する。 ④ 球を構成する要素に着目する。 ⑤ 今後の生活や学習に活用する。	・図形の面白さを知るために、円の性質を見つける活動、コンパスを使った活動を通して図形への関心を高める。 ・コンパスは円をかくだけのものでは無いことを知り、活用の幅を広げる。
見どころ（指導観）～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～ ・学習計画表をもとに、自分でめあてを「決め」グループで「考え」解決していく姿を見てほしいです。※必要なければ、全体共有はあえてしない予定です。	

《本時》

本時の目標「コンパスのはかり取ったり移したりする機能について理解する」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 CM 学習をする。 ① 1分チャレンジ（読み上げ計算） ② 日付チャレンジ（10パズル）	・毎時間の反復学習により基礎の定着を図る。（わり算と四則計算）
2 努力の目標点を確認する。 学習計画表を確認する。	・学習計画表をつくることで、努力の目標点（児童には「ゴール」）を明確にする。
3 本時のめあてを決める。 ★自分でめあてを立てる。	・この時間に自分が何を頑張るのか、何を身に付けたいか決めるように促す。
4 グループ進度学習をする。 ★グループで解決していく。	・各グループの机間指導を行い、進度の調整や方向性の確認をする。
5 本時の学習をふり返る。 学習計画表に記入する。 ・ゴールできたか、協働できたか	評価：コンパスの機能について理解したか。 ・毎時間のふり返りにより達成感や次の目標を立てられるようにする。本時の学習でのドキドキ、ワクワクを大切にしたい。

Grade3 額賀 簡条書きリフレクション

- ・先生が生徒に対して揺さぶりをかけて、意見を出し合わせるのを見てみたかったです。
- ・自分で目標を立てること、計画表をもとに見通しをもって学習に取り組むことなど、日々の積み重ねで児童がよく鍛えられているなと感じました。
- ・定規を使ってはいけないうりやり方が分からないと固まっていた児童が、仲間からの応援を受け、様々なコンパスの使い方を試している姿が印象的でした。この過程の中に学びがあり、思考力・判断力・表現力の伸びしろが隠されているのだと感じました。
- ・ロイロで提示したミッション形式の問題が、子どもたちの「解きたい！」という思いを上手に引き出していたと思います。
- ・生徒自身がどうやったら良いのかを主体的に考えて取り組んでいました。
- ・相談して協力しながら次の課題に進むという仕組みが子供達にも定着しているのが分かりました。普段から主体的に思考できるような授業をされているんだなと思いました。
- ・先生の授業を見せていただき、生徒の思考を止めないことの大切さを学ぶことができました。自分で気づき発見したことで深い学びにつながっていくことを改めて感じることができました。
- ・CM 学習では、集中力を鍛える・基礎基本の定着・切り替える目的で毎日行っています。
- ・「教えなくて大丈夫かな」と思われる先生が必ずいると感じながら授業をしていました。私もその立場に近いと思います。昔の私だったら焦っていろいろ子どもの思考を止めてしまう行動をしていたと思います。
- ・私はファシリテーター、コーディネーターの動きをしていました。その動きを見てもらいたかったですね。全チームの思考の流れ、個人の達成状況を把握していました。必要最小限のコメントに抑えたり、「すごい！＝繰り返し作業に入る。おいしい＝やり直しに入る。こうだったら？＝考え方を転換する。」という意味で声をかけて正答に近づけています。
- ・子どもに話しかけ、教えようとする教員がいたので阻止するのが大変でした。
- ・教員の親切は子どもの不親切であると考えているので、できなくても何とかする力が大事だと改めて感じました。
- ・一応勘違いして欲しくないのですが、構造的な板書の研究、振り返りの研究、思考を深める授業の研究の実践を通して、今年度、一新してみました。根本的な理論は一緒です。
- ・かつて旭化成の CM で、イヒ！というのがありました。ある時突然、素晴らしいアイデアが閃いた時のオノマトペです。今日は、教室のあちこちから、その音が聞こえました。笑顔とともに。
- ・様々な試行錯誤で苦労したからこそ、このイヒ！がでます。先生が示したら、ああ、で終わってしまいます。私たちこんな事分かっていますが、結構待つことができずに、手を出してしまいます。
- ・額賀先生は、手を出しませんでした。一見、不親切に見えます。でも、子どもを信じて、じっと待っていました。以外にも、この姿は分かってもらえません。親などは、なぜ、先生指導してくれないんだ、となります。先生が汗水たらして教えてくれることは、その熱意は買いますが、失礼ながら簡単ですし、自分自身やったという自己満足があります。だけど、子どもの成長をきちんと見据えた教育にはなりません。子ども自身に解かせる。だからこそ、イヒ！が出るのです。
- ・子どもを信じるなんて、簡単には言えませんね。先生が手を出さなくとも、適切な課題を設定すれば、イヒ！が出るとの見込みが必要です。そこまで子ども達を指導しておく必要があります。そこに額賀先

生は成功しています。見えないところで汗をかいています。

- ・それぞれが自分のめあてを考えていて、まさに自分で「決める」ということだと思いました。
- ・子どもたちがグループの中で活発に話し合いを行っていて、協働的に学習を進めている姿に驚きました。自ら学び向かう力がついていると思いました。今日だけではなく、日々の積み重ねによるものなのだろうと思いました。楽しそうで素晴らしかったです。中学生も、このような姿にしていけたらいいな・・・と思いました。頑張ります。
- ・紙のノートとロイロノートの使い分けについてはどう考えていますか。(自分も悩んでいます。)
- ・問題の答えの共有についてはどう考えていますか。(いわゆる答え合わせみたいなもの)
- ・グループごとに進度のばらつきが出るとありますが、その点についてはどう考えていますか？
- ・自分で「決める」自分たちで「考える」を体現した素晴らしい授業でした。これまでの日常的な学習指導の積み重ねが土台にあり、主体的・協働的なよりよい学びに結びついているのだと思います。
- ・学習計画表からはその時間ごとのねらいがわかりやすく示されており、子どもたちも見通しを持ちやすく、本時のめあても一人一人きちんと立てることができたと思います。
- ・学級内の支持的風土があり、みんなが安心した空間の中で学び合いができていると感じました。互いの考えを尊重しながらも、協働的に解決しようと学習課題と向き合っている姿が非常に印象的でした。
- ・今回だけでなく、日頃から授業を見せてもらい感心するのが、クラスの持ち上がり2年目で「たしかな積み上げ」がなされているということです。よく鍛えられた、質の高い集団だと感じます。日々、G2の子供達が一年後に目指す姿として、私自身勉強させてもらっています。
- ・グループ進度学習はもちろん、めあての立て方やふりかえり、学習計画表、そして最後の謎解きなど、指導者の緻密な「しかけ」がたくさん散りばめられていて、参観している45分間がとても短く感じました。授業を受けている子供達も、同じような気持ちだったのではと推測します。
- ・「モヤモヤがスッキリした!」「面白い!」「家でやってもいいですか?」など、子供達のドキドキ・ワクワクな発言をたくさん見聞きました。授業において、目標達成+αにあたる、とても大事な部分だと思いました。
- ・個人でめあてを立てていたので自分に必要な学びを考えることができていたように感じました。
- ・集中している班は、自然と対話が精選されて(減って)いる姿があり見ていて面白いなと感じました。
- ・クラスの雰囲気づくりがとてもよく安心して学びに向かっているなと感じました。
- ・学習計画表を見て、自分なりの目標を決めさせていたことが良かったと思いました。個人ごとに何を課題に思うのかはそれぞれなので、そこを認めてあげることが子供たち一人一人を大切にしていると感じました。
- ・グループでの活動も和やかな雰囲気が進められていて良かったです。必要になったときに気軽に聞ける相手がいることで、安心して学習を進めることができていたと感じました。
- ・悩み合う、考え合う、教え合うを通して自分たちなりに解決の道筋を捉えていたと思いました。それが日常的に行われているのがわかるくらい自然に話していて、考え合うことが自然になっているのだと感じました。
- ・日付を使った数字から数式を考える学習によって、一気に集中力や考えたい気持ちが高まったように感じました。
- ・子ども達が何も言われなくてもノートに書く姿がすごいと思いました。

- ・自分でめあてを決め、ふりかえりもするという活動を毎時間していることに驚きました。
- ・答えを容易に与えない、全体共有しないという点が心に残りました。
- ・子どもたちがよく訓練されています。特に、学習計画表をもとに、自分のめあてを決めて取り組むことは主体的に授業に参加する姿勢を生み出します。
- ・グループで最後の最後まで自分たちで考え、「決め」て話し合い、教え合って課題を解決しようと協働する姿は素晴らしかったです。集中力も持続していて感心させられました。
- ・それぞれのグループの進度の差があり、本時の個々の評価は難しいと感じました。
- ・子どもたちは、自分で考え、仲間と協力して答えを考えていました。
- ・授業はいろいろなスタイルがあると思います。先生が、子供たちの答えの考えをいくつか出させて、それについて考えさせるもの良かったのではないかと思います。子供に意見を出させて、揺さぶりをかけたりして、いろんな解答の仕方があることをわからせるのもいいかなと思いました。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 G4 / 図画工作	児童生徒観 ・手先が巧みになり扱える用具が増え、多様な試みができるようになる学年だが、発想を広げることが苦手な児童や手先が不器用な児童が多い。しかしモノづくりへの思いは強く、とても熱心に学習に取り組む児童たちである。 ・面白いことを考えるのが好きな児童集団で、いつも製作の喜びが大きい。本題材ではさらに自分の方法を主体的に考えさせたい。
単元／教材名 ギコギコトントンクリエイター	
実施日時／授業者 2023年11月2日／藤村 泰子	
単元の目標 材料と向き合い用具を安全に使って実用性のある作品を作ることに主体的に取り組む。生活を豊かに工夫して表すことに喜びを感じる。	教材観 ・のこぎりや金づち等の用具の安全な使い方を学ぶ。 ・木を組み合わせた材料から発想して、生活を豊かにするものを自分で作り出すことを楽しむ。 ・木やコルクの素材や様々な材料との出会いを楽しみ、面白い使い方を思い付き、主体的に自分の作品を考案する。製作を楽しむ。 ・素材をベースにしながら形を考え、フックやクリップ、ピン、リング等を使うことでどんな風に楽しく使えるのかを考えさせたい。
単元指導計画 ①導入 使えるものを作ろう。スケッチする。 ②のこぎりを使って木を切る。(両刃のこぎり)バリ取り (やすり掛けをする。) ③切った木とスケッチを元に作りたいものを考える。釘や接着剤を用いたり着色したりして作りたいものを工夫する。 ⑤友人の作品を見たり、家でどう使うかを発表し合ったり、シェアし合う。	
見どころ(指導観) ～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～ ・のこぎりで切った木材・コルクシートとピン類・フック類等の材料を使って組み合わせの感じをとらえながら楽しい使い方や表し方を思い付き、工夫して表す姿。	

《本時》③

本時の目標「切った木材を活用して作りたいものの形を楽しく考え、方法や用具を工夫している。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1. 作品制作準備 前回までの学習の振り返り 2. のこぎりで切った木材を並べて想像し表したいことを見つけ、事前に考えて描いたスケッチと照らし合わせながらどのように使うか、作るかを考える。必要ならばスケッチをとる。 3. 木材とコルクシート、段ボールの他に使用したい材料や用具を検討する。★ 4. 接合の方法について理解し、自分の方法について考えて製作する。 5. 友人の製作を見る。 面白い形や材料の使い方に気づく。(数回) 6. 片付け 7. 本時をふり返る 次時の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・切った木の組み合わせやつながった形を試しながら作りたいもの考えるよう伝える。 教科書等の参考作品を見て手がかりとする。 ・学校の準備品(使える材料や物品)の紹介と確認をする。(L字フック、鋸、クリップ類(金属・木)、リング、紐類等) ※家庭から持参してもよいことを伝える。 ・表したいことに合わせて形や色、また、材料等を工夫することを伝える。 <p><u>評価 表したいことに合わせて組み合わせ方やつなぎ方材料用具の使い方を工夫している。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・接合のレクチャー 接合はボンドのみの接合とくぎを合わせた接合があることを確認し自分で方法を選択することを伝える。 ・釘打ち実演&用具使い方指導 ・素敵な発想構想をシェアする <p><u>評価 安全に用具をつかうことができたか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童等の学習を価値づけて次時への意欲を持たせる。

Grade 4 藤村 箇条書きリフレクション

- ・廊下に掲示されている図工・美術の作品を見て、藤村先生の教科指導への熱い思い、発想力、準備への手間暇に感服しています。仲間の作品を見て創作意欲を燃やしたり、アイディアを得たりすることが、日々の授業につながっているのだと思いました。
- ・活動時間をいかにして確保するか日々苦慮されていると思いますが、授業を参観して、ロイロの使い方、道具の準備など様々な工夫があることを知りました。じっくりと制作に向き合うことに対して、やや不完全燃焼の児童もいたと思いますので、活動内容を絞ることが必要なのではないかと感じました。
- ・様々な材料を教師が準備しておいて子どもたちが自由に選択して製作できる環境づくりを用意しておくことが大切だと気づきました。
- ・ロイロノートを使うことで様々な資料（前学年の作品など）も自由に見せることができることができるのいいなと思いました。
- ・教師から「素敵だね。」「どうする？」という問いかけや肯定的な声掛けが多く意欲付けにつながっていたと思います。
- ・ロイロノートで前回までの内容を確認することで、効率良く復習することができ、本時の課題にスムーズに繋げやすくなっていたと思います。
- ・緊張している様子はあったが、黙々と真剣な様子ですすめていたと思います。普段は発言をしたくてしかなかった子もいれば、そうでない子もいる中で、できるだけ多くの子に発表の機会を振っていて、参考になりました。
- ・出来上がった子ども達の作品に、いつも感銘を受けています。豊かな発想・感性からの授業づくりには、いつも感心させられています。今回も、様々な形の木材を目の前に、ちょっと固まっている子ども達に、適切なアドバイスがなされ、ハッとすることばかりでした。
- ・子ども自身が考える時間や、人とは違う取組をする時間が、とても貴重だと思えました。
- ・他の教科の授業と異なり、自らの発想や取組ですすめていく授業展開が素敵でした。
- ・どの子も真剣な表情で、頭を働かせながら作りたいものを考えていました。授業が終わった後、「次が楽しみだな～」と言って教室に戻って来ていました。
- ・昨年の例を見ての気づきを共有したことで、全体の創造性が高まったと思います。また、手を挙げていない子にも発言を求めたことにより、みんなが参加する授業になったと思います。
- ・どうしていいかわからない、作りたいものがない、というようなことがなく、それぞれが自分の作品を早く作りたい、という気持ちで臨んでいたと思います。それは、前時の、のこぎりを使って「自分で切った木材」を使っているからなのだろうと思いました。
- ・お手本の作品の画像を見ながら気付いたことを挙げさせていたので、友人の意見をきいて新たな発見につながっていくと思いました。
- ・どんな作品にしたいか。表現したいか。児童が試行錯誤しながら主体的に思考している様子を見ることが出来ました
- ・言葉の説明や道具の使い方の説明が丁寧にされていました。
- ・色々なアイテムがあることで、組み合わせの幅が広がり、自由な発想を引き出すことにつながっていたと思いました。
- ・絵を描くことへの苦手意識がある生徒でも意欲的に取り組める課題設定だと思いました。

- ・材料をどのように使って作るのか、昨年のもも見せながらイメージを持つことができていました。その中で教師が子どもたちへ素材の使い方を丁寧にし、選択肢を与えることで子どものワクワク感につながることができていたと思います。
- ・ロイロノートをうまく活用しながら、いろいろな表現方法があることを知り、「もっとやりたい！」という意欲をもつことができたと思います。
- ・授業内で子どもたちが「ああしたい。こうしたい方がいい。」などのつぶやきがありました。子どもの思考をゆさぶる様々な仕掛けが盛り込まれていて、材料と向き合いながら主体的な学びへとつながっていたと思います。次時の子どもたちの様子もとても楽しみです。
- ・子どもの「味気ない！」の発言が素敵だなと思いました。
- ・図工は準備が命ということが分かりました。たくさんの材料の提供、過去作品の提示、イメージをふくらませるためにいろいろな準備が必要だと改めて感じました。専科ならではの教材研究だと思います。
- ・イメージをふくらませるために言葉のシャワーのようにたくさんの声かけがあって、子どもはそれぞれのひとつを拾い上げて自分の作品に取り入れるという、新たな視点も自分の中に生まれました。
- ・先生がいろいろなことをどうやって閃いているのか、閃く過程に興味があります。
- ・いつもは出来上がった図工の作品を見るだけですが、今回の研究授業を通して作品ができる過程の一部を見ることができてうれしかったです。
- ・子供たちが、自分で選択できる・考えることができるような材料の準備がしてあり、とても楽しそうだなと思いました。その準備が豊富なところにすごさを感じました。
- ・考え・アイデアが生まれない子もいると思いますが、作品例の紹介を多く取り入れることでヒントになるようになっていて安心して取り組めると感じました。
- ・試しに並べてみることやみんなの作品を見に行く場面を設定することで、より深く思考しながら表現につなげることにできたと感じました。また、「途中で変えてもいい」という一言は、子供たちの思考が深まるきっかけになると感じました。やりながら気付くことがあり、より良いものにしていきたいという思いも生まれると思います。逆に、やりたいことがうまくいかない状況も、どう改善していくべきか考えることにつながると感じました。
- ・前時の鋸作業、少し覗かせていただきました。子供達の「どうやったら、上手に切れるか？」を考えている真剣な表情が印象的でした。
- ・昨年度のG4作品のような面白い作品を作り上げると思うので、制作メインの、次時の活動が見てみたいと思いました。
- ・児童が「どんなものにしようか」「もっとこうすれば素敵になるのでは」と、自分で決め、考えて工夫していく姿が見える授業でした。実際、完成図と比べて、より複雑にバランス良く並べている子が多かったように思います。取り組みながら進化していく子どもの発想は素晴らしいと思いました。
- ・作ったものをどう使うのかも考えられ、発想を広げる授業展開でした。
- ・途中、作品例・接合の説明などもあり、やや忙しい流れになりましたが、G4の集中して真剣に話を聞く姿を見ることができ、ものづくりの楽しさを日頃から教えていることが伺えました。

一枚指導案

データ	思い
学年／教科 第1学年 国語科・書写	児童観 ・教科書下巻「かんじのはなし」で絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る学習をしているが、書写では初めての活動である。 ・これまで「ひらがな」「カタカナ」の「とめ」「はね」「はらい」等に気を付けて書くことが中心であった（「漢字」は3学期から）。 児童は、「おれ」「まがり」「そり」についても気を付けるようになったが、漢字の成り立ちまでは意識をしていない。
単元／教材名 字のかたち／かん字ずかん （光村図書・教科書 37 ページ）	
実施日時／授業者 令和6（2024）年2月28日（水）5校時 繁田 賢治	
単元の目標 ◎漢字の成り立ちを知り、丁寧に書くことができる。[知技(1)エ、(3)ウ(イ)]	教材観 漢字の成り立ちの学習をきっかけとして、漢字について新たな発見をしたり、漢字を読み書きできるようになったりした自他の成長などに気づき、漢字への興味や学び合う姿がこれからの書写や漢字の学習へもつながっていくだろう。
単元指導計画 - 1 時間扱い ① 漢字の成り立ちを知り、丁寧に書くことができる。	
見どころ（指導観）～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～ 書写は、個の活動が中心であり、友達と学び合える場がなかったことから、今回はグループでの活動を取り入れた。	

《本時》①

本時の目標「漢字の成り立ち（象形文字）を知り、丁寧に書くことができる。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 前回までの学習を振り返る。	・1年生で学習した漢字の「とめ」「はね」「はらい」等を確かめたことを想起する。
2 漢字がずっと昔にできたことを知る。	・教科書37ページの挿絵から、現在使われている漢字との関連を考え、漢字は昔から成り立っていたことを知る。
3 「山・川・日」の絵から漢字の成り立ち（象形文字）を理解して、丁寧に書く。	・漢字の成り立ちを意識して「山・川・日」を鉛筆で書く。 <u>評価：漢字の成り立ちを意識しながら、「山・川・日」を丁寧に書くことができたか。</u>
4 1年で学習した漢字から「山・川・日」のような漢字（象形文字）を見つけ、交流する。★グループ	・教科書37ページの挿絵から、「山・川・日」以外の象形文字を見付け、友達と考えを交流しながら「文字」に表す。 <u>評価：「山・川・日」やそれ以外の文字（象形文字）を知ることができたか。</u>
5 本時の学習の振り返りをする。	

Grade 1 繁田 簡条書きリフレクション

- ・漢字の成り立ちを考える姿が本当に楽しそうで、とても印象的でした。これからの学習でも「この漢字はこんな形だったのかな？」と考えながら学んでいくんだろうなと思うほどでした。
- ・教科書やお友だちのワークシートなど、様々な場所から情報を得ようと、「自分で決める」「自分たちで考える」姿が立派だと思いました。
- ・本当によく訓練されている子たちだなど、常々感じています。担任の磯川先生や授業を見せてくださった繁田先生をはじめ、教科担任の先生方のご指導の賜物だと感じました。
- ・漢字の成り立ちについては、日々の学習指導の中でも取り上げていましたが、非常に前向きに取り組んでいる姿が印象的でした。児童の実態にあった教材を選択されていたと思います。子どもたち同士の交流を通して様々な気づきがあったようで、非常に嬉しそうでした。
- ・導入場面で「とめ」「はね」「はらい」「そり」「おれ」「まがり」など既習事項をきちんと押さえることができていたように思います。日々の子どもたちが書く字を見ていても、書写の時間で学んだことを生かして、意識をしていることが分かります。
- ・何よりも、きちんと授業に参加している姿が素晴らしかったです。繁田先生をはじめ、1年生の授業を組み上げられた先生方のお力、もちろん担任の磯川先生のお力と、しみじみ思いました。学校生活のスタートである小学1年生が、この子たちにとって素晴らしかったことが、はっきりと感じられました。
- ・丁寧な指導を拝見しました。そして何度も繰り返して定着を促す指導も納得でした。
- ・文字の成り立ちの学習は、子ども達の思考力が発揮され、研究主題に沿った取り組みと思われました。教科書にあることだけでなく、本当に0から考える姿が素晴らしかったです。
- ・Aさんが、木の絵を三つ、森の形に△に書いているのを見て、「あ！そっか！！」とBさん。彼女は横並びに書いていたのです。早速直しました。直した形が▽だったので、私は驚きました。これが1年生なのかと妙に納得しました。
- ・1年生が午後の時間に学習に主体的に向かう姿から、日々の指導の充実を感じることができました。
- ・文字と絵のつながりを理解させるために自分たちで考える活動は、子供たちの思考がよく回転するものだと感じました。自分たちで「探したい・考えたい」と思えるような授業の流れを考えていきたいと感じました。
- ・授業の中で、ホワイトボードに残しておきたいものを精選し、残しておく、子供たちは目を向けて考えるヒントにするのだと改めて感じました。ICTの良さと並行して子供たちの思考を進めるために何が必要なのか考えていきたいと思います。
- ・資料を大きく印刷して提示したことが、意欲を引き出すのに効果的だったと思います。
- ・子ども達が次々に既習事項を思い出し、楽しんで考えていた姿が印象的です。
- ・漢字には絵や形がもとになってできているものがある、ということが活動を通して自然に理解でき、興味につながったと思います。
- ・私は、書写は「個人で集中して書く時間」という考えがなかなか払拭できずにいますが、グループでの書写も面白いと思いました。
- ・漢字の成り立ちは漢字を覚える上で重要な手がかりになると思います。それを書写と関連付けたところが、新しい発見でした。
- ・大事なことを押さえつつ、進んで学習できる仕組みを考えたいと思いました。”

- ・「初めてのグループ学習」とありましたが、初めてとは思えないくらい適切に話し合っていたグループがいくつもありました。普段から、鍛えられていることにも感心しました。
- ・同じ低学年を授業する者として、「おれ」「とめ」「はね」「そり」など、書写の学習内容を国語の漢字の学習にも関連させての指導が、低学年期は特に大事だと思いました。
- ・児童がみんな主体的に活動していて、絵から漢字を見つけることに、楽しんで取り組めていました。
- ・漢字の書き方だけではなく、成り立ちを学習することで今後も漢字に興味を持って取り組めると思いました。
- ・G1 の児童は指示を聞いたり、手をあげて発言したり、タイミングを見て自分の意見を言ったり、周りを見て行動できていて驚きました。
- ・ホワイトボードに多くの子が書きに行っていて、間違えを恐れずに取り組める雰囲気を作っていて良かったと思いました。
- ・1年生の成長に驚かされました。自分たちで何を探せば漢字が出ているか(漢字ドリルや国語の教科書、ノートなど・・・)を判断して、進んで適切な漢字を見つけようとしていました。
- ・学習内容の理解もしっかりされていて、既習の土台の上に主体的に学習しようとしている1年生の姿が見られました。
- ・指示の中で「1年で学習した漢字」の押さえが甘く、結果的に挿絵のネコを取り上げた子もいたのが残念でしたが、どの答えも否定せずに受けとめてられいて、優しい雰囲気の中の授業でした。
- ・グループで交流しながらの学習でしたが、「学び合い」というところにもう一歩近づけるならば、先に一人学びの時間を少し取り、その交流をグループで取って、互いの良さを認め合うという流れもあったのではと思いました。
- ・初めてG1の授業を見させてもらい、勉強になることばかりでした。準備物や基本的な姿勢など、細かい指導をしながら、授業を作っていくことが必要なのだと感じました。中学部としても正す必要があると感じることができました。
- ・ICTが便利であるが故に、私は授業で何か活動をさせるときにICTを使うことが多かったのですが、紙での資料を実際に貼って掲示すると分かりやすい場面もあるのだと思いました。実際に鉛筆や色ペンで紙に書くという活動も大切なのだと分かりました。児童生徒の発達段階に応じて、適切な学習ツールを使わせていきたい。

校内研究ワークショップ°

1 日 時

第一回 2023.5.12（金）13:00～ 「研究主題について」

第二回 2023.9.1 (金) 13:00～ 「公開授業リフレクション①」

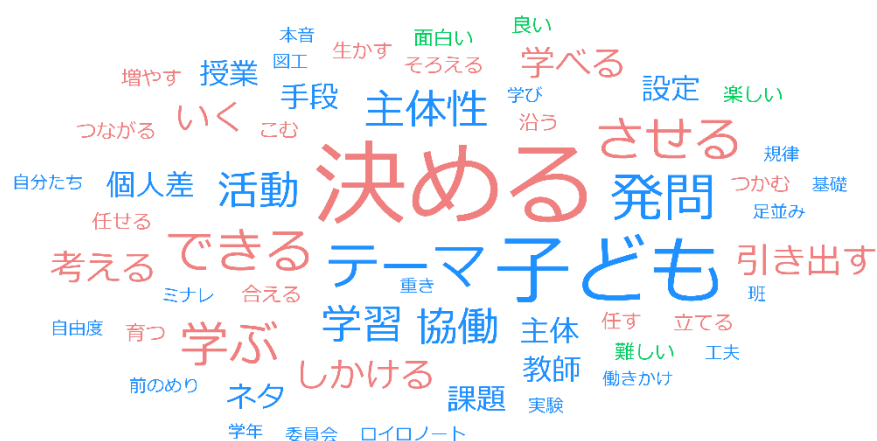
第三回 2023.9.22（金）13:00～ 「公開授業リフレクション②」

第四回 2023.11.17（金）13:00～ 「公開授業リフレクション③」

第五回 2024.2.16（金）13:00～ 「一年間リフレクション」

2 方法

- ・ 未来志向型
- ・ 肯定ファーストのリフレクション
- ・ リレー質問による実践の掘り下げ
- ・ 公開授業リフレクション②「生徒目線・教師目線でよさを見つける」
- ・ 一年間リフレクション「個人の研究の感想・一年間の研究の感想」



第一回「研究主題について」

リフレクション①

- ・共通する児童生徒を教えながら、なかなか授業を見に行くことが少ない中で、やはり学び合う機会と話し合う機会があることは貴重です。今日の研修はたくさんお話ができて有意義でした。
- ・『自己決定』の上に積みあがっていく学習や表現の喜びは大きいです。自分事になった事象の学習効果や活動などの成果が大きいことは日々実感していますが、自己決定力には個差がありどのようにこの力を伸ばしていけばよいのか考える良い機会となりました。他教科での実践例などはとても参考になりました。
- ・後藤先生から漢詩題材を軸にしてのお話が聞けてよかったです。遠い昔に学習した記憶がよみがえりわくわくのした気持ちになり、G8の生徒等もこのような感性持ち合わせて成長すると思うととても楽しくなります。
- ・『主体性』を育てていくためにはやはり繰り返し根気強く子供たちに任せてみることや経験させることが大事だと改めて思いました。
- ・研究テーマに沿った授業づくりについて、深く考えることができるきっかけになりました。「決める」と「考える」ことの繋がりについて考えれば考えるほど、奥が深く難しいなと思いました。
- ・子どもに任せたり、委ねたりすることがなかなか自分ではできないのですが、(教えてしまうことが多い)子どもたちの主体的な活動を見守る必要もあると改めて勉強させてもらいました。
- ・みんな伸び伸びと楽しく授業ができていた。自分たちで(自分で)テーマを決めて発表をしていたと思う。ただ、発表後に授業者からの感想なり、評価があってもよかったかなと思った。また、他のグループの発表を生徒たちに評価させるのもいいかなと思った。授業者の皆さんご苦労さんでした。
- ・先生方とお話して、まだまだ学ぶことがたくさんあると感じました。日本にいた時は、教科(国語科)の先生と日々の授業について進め方や内容、生徒の反応などを相談してやっていたので、久しぶりにその感覚を思い出しました。
- ・共有の場面の持ち方について質問があり、自分が深く考えずに行っていたことに気付きました。ねらいや目的に沿って共有の場を設定することも大切だと感じました。
- ・子ども達から期待していたような答えが出ない場合、どのようにアプローチしていくか、という話題と、子どもの意見に教師がどのように反応するか、という話題が心に残りました。今後、その点を意識して授業に臨んでいきたいです。
- ・自分で「決める」自分たちで「考える」学びについて先生方との交流を通してたくさんの気づきがあり非常に有意義な時間となりました。
- ・「子どもに委ねる」ことについては教師としては覚悟がいることかもしれませんが、今後の授業づくりにおいてヒントとなるような交流ができました。ねらいを明確に示し、日常的に「学習のながれ」を意識して「学び方」の指導をする必要性も感じました。「教えてもらう」から「自ら獲得する学び」への転換を図っていきたいと思います。
- ・主体的な学習のためには児童生徒の「学びの実感」が必要であると感じました。その1時間の授業の中でどのような学びがあったのかふりかえる(自己評価)時間も設定し、学びの実感を通して今後の学びへの意欲を高め、自立した学習者を育てていきたいと思います。
- ・決める→「あなたはどうか生きる」新鮮でした。
- ・小学校は「決める→考える」流れが多く、中学校は「考える→決める」の流れが多いことに面白さがあ

りました。これは、小学生は「体験から学ぶ」からなのかと思いました。

- ・重堂先生の授業の「決める」ポイントは物を決める、場所を決める、方法を決める。決めて「体験から学ぶ」思考の流れは数学の方程式も同じであり、他の教科でも同じように考えてみたいと思いました。

★先生方と話すことによって、いろいろな視点が開かれた感覚があって楽しかったです。

★何が良くて何がダメで・・・ではなく、自分が考えていなかった領域の話も知ることができ、とても充実した時間でした。

●今回の後藤先生の授業から、環境によって主体性を引き出せるならば、どんどん先生方が授業を見にいくと子どもの主体性が上がるかもしれないと思います。面白い！！

- ・自分で「決める」自分たちで「考える」ことについては、子供達にくりかえしくりかえし経験させる機会を与えることが必要だということが上がりました。授業においては自分で課題を見つけられる子、自分で能動的に課題解決に向かう子に育てていきたいと考えます。そのためにも授業の進め方の中に協働的な学習を意図的に取り入れるように取り組んでいこうと思います。

- ・後藤先生の授業においては、単元全体を通して明確なゴールに向けた意図的な授業があってこそその当日の授業だったと思います。グループでの話し合いで一人一人が自分の考えを臆せず言えていたことはすばらしく、これは肯定的なかかわりを大事にしてきたこの学校の学級経営のたまものではないかと思いました。

- ・気になっていた後藤先生の答えを聞くことができ、漢詩を学ぶ価値や意義に深いものがあると思いました。大きな狙いをもって授業に取り組むことの大切さを改めて考えました。

- ・「自分で決める、自分たちで考える」ことについてグループで話すことで、課題となる部分やできている部分を共有することができました。

- ・自分で決めることの経験を継続的に積ませていくことで主体的に考えることができるようになると思うので、自分の授業でも決める部分を多く取り入れていきたいです。

- ・考える授業のために、課題の明確化や選択肢、個人差を埋める手立て等日常の授業で考えていきたいです。

- ・この研修を通して、先生方の教育観に触れることができたことが一番大きな収穫でした。

「自分で決める」「主体的な学び」とは、という問いに対して、目指す児童生徒像だけでなくそのために教師自身がどうすればいいかを掘り下げて考える・・・とてもいい機会になりました。

- ・子どもの学びの実感を支える振り返りの大切さ

- ・生徒が単元をつらぬく想いを持てるか、学ぶ内容ではなく何をどう学ぶか。そのための機会や場の設定が教師の役割

- ・子どもに委ねる授業とは

リフレクション②

- ・「本時の目標の押さえはいつ行くと効果的か」ということについて授業者と話しました。授業は一つの流れを変えると、全体の流れが大きく変わってしまうので難しく、判断に迷うところです。指導者の「活動の中で気づきを大切に」という生徒への思いがあったことは理解できました。
- ・話し合いで興味が沸いた内容
- ・「安心」による「主体性」
「清書じゃないから」という言葉で進んで書き始める。「いい表現だ」という言葉で進んで発表する。「安心」できる環境が子どもの主体性を引き出す要因になっている気がしました。では、最後の他の班への発表での「安心」は何が足りなかったのか、考えるのが面白かったです。
- ・「後出し」が引き出す「協働的」
「それを先に言ってよ」がいい感じがしました。「意図的後出し」は協働的な学びにつながる可能性があると感じました。最初から完璧を目指してつくるのと、修正が入りながらつくるのとでは向かい方が違うと思います。なんでもかんでも後出しは本当に良くないですが、意図的に後出しする必要性があることを考えるきっかけができました。
- ・後は、話し合いで話題になった、先入観・レッテルをいかに取り除くか（大人でも）が大切ですね。
- ・子どもたちの主体的な学びの基礎となる部分に支持的風土の醸成という学級の雰囲気も大きな要素であると感じました。
- ・話し手は自分の意見をきちんと伝え、聞き手も相手の意見を正面から受け止めて共に追究しながら学び合っている姿がとても印象的でした。今後の授業づくりを行っていく中で非常に参考になりました。
- ・また今回の題材設定（現地校交流）においても、教師目線と生徒目線からそれぞれ感じたことをシェアしていく中で見通しを立てた単元計画の重要性を改めて感じることができました。
- ・子どもの良い発言や文章を題材にして授業を組み立てるということを、今後意識してやってみたいなのと感じました。
- ・話し合いをしやすい雰囲気作り、お互いを尊重し合える関係作りが、授業の土台になっていると感じました。
- ・個の活動とグループ活動について改めて考える機会をいただきました。
- ・教師目線、子供目線、改めて分けてみると面白いと感じました。教師の意図的な活動により子供の活動が活発になると改めて感じました。
- ・教師の思いと子供の思い、それがつながることで指導の効果は更に高まるのだと感じました。
- ・子供たちの思考を進めるために、より効果的な発問・活動を取り入れることができるよう勉強していきたいです。と同時に、教師の思いに子供が寄り添うのではなく、子供なりの思考に教師が寄り添いながら授業を進めることができるようにしていきたいです。

リフレクション③

- ・授業者の声を直接聞くことで、授業への思いや大切にしていきたいことがよく伝わり、非常に参考になりました。
- ・これまでもそうでしたが、今回の授業を見せていただいて思うことは、主体性な学びに導くためには、学級内に支持的風土が醸成されていることが重要であると感じました。一朝一夕でできることではなく、これまで地道な実践の積み重ねが成果となってあらわれているのだと思うと共に、私自身も地道な小さな実践から大切にしていこうと思いました。
- ・これからの時代に必要とされる資質や能力を育成していくために先生方が大切にされていることや実践を共有することができ、短い時間ながらも充実したワークショップとなりました。
- ・自分の授業でも実践したいアイデアを共有していただけるととても良い機会になった。
- ・意見交換の場がある事によって、色々な見方があることに気づくことができた。自分は疑問に思っていなかったことでも他の先生が質問してくれた事によって新たな発見があった。
- ・授業のまとめの際、オープンエンドにすることで「自主性」の向上に繋がることがわかった。また、活発で有意義な意見交換の場面にするために、自分の考えを「言語化」するスキルを身につけさせていきたいと思った。
- ・質問を受けると、自分の考えていることと他の方が考えていることの違いが分かって面白いので、自分自身の思考の整理に繋がりました。
- ・自分がなぜその行動をしたのか、客観的にみるためにも質問リレーは大切な視点だと感じました。
- ・興味をもってくれることも嬉しい感覚で、自分の自信にも繋がりました。
- ・今年は、自分の指導方法を勇気を持って変えました。元々、授業に自信がないと思っていたので終末は自分の言葉で締めくくっていました。怖かったけれど、それが主体的協働的に動く仕組みになり効果を感じています。
- ・研究授業で提案性のある授業をしていただけてとてもいい学びになりました。
- ・日頃の授業実践について気軽に話せる機会の設定がとてもよかったと思います。ワールドカフェのように多くの人と話せるといいなと思いました。
- ・(時間はないですが…) 様々な先生方の授業方法などを学べる研修会があればいいと思いました。(ミニ研修?)
- ・授業者の大切にしている「想い」をお話しいただけて良かったです。
- ・図工科において、『発想力』『新しい表現力』を高めることを重視した授業の組み立てがよくわかりました。
- ・額賀先生の授業は、児童の力を信じて敢えてオープンエンドに挑戦することで協働性や主体性を生み出すもの。1時間の流れに添わないことはとても勇気がいることです。ドキドキワクワクを大切に、児童の達成感を大切にしていること、授業感が伝わりました。
- ・疑問に思っていたことを聞けて良かったです。授業者の方が明確に意図やビジョンを持って授業構想されていたことがよくわかりました。見習いたいと思います。
- ・また他の先生方が普段の授業の中でどのような工夫をしているのか、もっと教えていただきたいなと思いました。
- ・授業者の先生の話聞き、授業のねらいに沿って計画を練っていくことの必要性を再認識することが

できました。

- ・授業、単元の中で発散と収束を意識して子供たちの思考に寄り添いながら進めていくことが大切だと感じました。
- ・授業の中で何を提示するのかによって子供たちの思考に刺激を与えることも大切だと思いました。
- ・教師自身も自分からチャレンジする姿勢を大切にしていきたいです。今の社会で求められている力の獲得を目指し、教師自身も変わることを恐れず取り組みを進めていきたいと勇気をもらいました。
- ・授業について話し合う時間は本当に貴重ですし、学びが多い時間です。フランクに話せる場の設定ありがとうございました。
- ・時間がない中でしたが、疑問に思っていたことを聞くことができとても良い機会となりました。やはり実際に、授業者に聞いてみないと分からない授業者の思いがあるのだと思いました。今後の自分の授業実践に生かしていきたいと思いました。

一年間リフレクション

- ・ 本日の校内研究をうけて、次年度校内研究・研修で取り組みたいことを羅列します。(気持ちが変わるかもしれませんが...)
- ・ インター校見学 (できればインスペクションで高評価・outstanding の学校)
- ・ 公開授業 (最低、年1本)

※関わって、「授業公開週間」のようなものを設けると、日常的な授業公開に抵抗がある先生方も、抵抗が弱まるのかと予想します。

- ・ 振り返りの研究 (取り組み方法から評価方法まで)
- ・ 校内研究・研修の家庭への発信 (掲示、学校だより、学級通信などで、教育活動への理解を得る)
- ・ 短い時間でしたが、とても充実した時間であったと思います。皆さんが1年間やってきたことを聞けて、これからの研究に対するモチベーションを高めることができました。
- ・ グループ協議の中で、評価についての研究を進めたらどうかという話が上がり、私も興味があるところで、テーマとしても良いのかなと思いました。
- ・ 研修会を通してたくさんの先生方の実践をお聞きし、授業づくりの参考にさせていただけたことが一番の収穫でした。
- ・ 毎日の授業で力をつけさせることがいかに大切であるか、改めて考えさせられました。学級経営と同じで、日々の取り組みがあるからこそ行事で飛躍的に成長するように、日々の授業で着実に積み重ねるからこそ、国際交流のような場面でさらに力を伸ばすことができるのだと思います。普段の授業と切り離して考えてしまっていたことに気づかされました。
- ・ 生徒と教員が、学習の目的と成果を共有できるような仕組みを考えたいです。目的や「これをがんばればこんな風に成長する」ということが明確になっていれば学びの姿勢が主体的になると思ったので、来年はこれまでの授業スタイルを見直して取り組んでみたいですね。
- ・ 人の授業を見るということを通して、自分の授業を考察することができます。内省することができます。
- ・ 従来型の授業者が「教え込む」指導は、一掃されなければなりません。一斉テストで、赤丸を付ける評価方法も、もうやめる時が来ていると思います。今回の取組、研究テーマはこれに応えるものだったと思います。確かに ICT を活用しました。その方が早いからかと思います。しかし、使わなくて「教え込み」を解消する方法はたくさんあります。従来もありました。
- ・ 児童生徒が活動する授業は、先生がさぼっているようで、保護者から何しているのか、きちんと教えてほしい、という声があったと聞きました。そうです、親の学習感、授業感を変えることも課題です。
- ・ 自信をもって、先生は何もしない、を实践したいですね。そのヒントは、欧米の小集団学習にあると思います。次年度は、インター等の欧米型少人数学習を参観できるプログラムもあってよいのではないのでしょうか。
- ・ 職員同志で話し合う機会がたくさんあったことで、多くの気づきがありました。
- ・ 教師の意識の変化や向上は子供たちを変容させていくのだと実感する機会にもなりました。
- ・ カジュアルな研修が多く設定されることで学びが多かった。
- ・ このような実感を EC やアラビックの先生方とも共有できたら一層よいのではないかと思います。
- ・ 来年度の研究は基本的には今年と同じテーマで取り組むので良いのではないかと思います。個人的に

は教師同様子供たち同志の学び合いの共有がなされると学力や意欲の向上につながると考えます。自分是对話的な学び合いに取り組もうと考えています。

- ・他の先生方のリフレクションを聞きながらリフレクションを行っていました。自分ってどういう見方をしているのだろうと俯瞰して考えていると、3回目のグループの話のとき、学級で「ワクワクは自分でつくる」という経営方針が授業に表れていると気付くきっかけになりました。課題を与えていなく、子どもと一緒に見つけて、課題を決めて、進めている授業になっていると気付きました。
- ・校内研究ありがとうございました。私が目指している校内研究は、未来志向型、形にこだわるのではなく、ラフに楽にレベルアップ、そして効果的にビルドアップできる研究です。来年度は、多くの授業公開と【一人一研修】ができればいいなと思いました。
- ・先生方と共にテーマに向かって研究を進めていく中で個人的に様々な学びがありました。今年度、研究テーマを意識しながら、目の前にいる子どもたちの実態にあわせて試行錯誤の連続でした。研究を通して、学習の「ねらい」とそのための「授業の見通し」を持たせることがいかに大切であるか実感しました。今学んでいることはどんなことにつながるのか、どんな力がつくのか。子どもたちは「もっとわかりたい」「もっと知りたい」という思いを持っていると思います。それをうまく引き出せるように、今後も研鑽を重ねていきたいと思っています。
- ・次年度に向けては、今年度取り組みを継続させつつも、「児童生徒の自律」を促せるような研究を進めていければと考えます。自分で目標設定をし、そのための方法を自ら考え、実行する。そして、結果を自分で考察して次に生かすという学習のサイクルを子どもたちにも意識させることができればと思います。今年度、充実した校内研修でした。
- ・今年度の研究テーマに沿ってみなさんがどのようなことを実施してきたり心がけてきたりしたのかが分かって、とても参考になりました。
- ・「子供たちを主体的にさせる、魔法のカギはいたるところに隠れている」という表現がとても印象的でした。
- ・学びに向かう態度を適切に評価するにはどうしたらいいのか改めて考える機会にもなりました。
- ・校内研修全体については、工夫された進め方が行われ、充実できたのではないかと思います。協議会においては多くの先生方の考えや思いが聞けて参考になりました。また、自分自身の取り組みの参考になることが多く、普段の授業にも生かすことができました。
- ・主体的に取り組ませるためには、課題設定や発問の工夫が大事だと思いました。それらが発達段階や興味関心、既習事項に合わせたものになるように考えることが重要でした。また、課題設定については子供たちに考え、決めさせるようにすることで、より主体的に学習に取り組めると思います。
- ・次年度は継続研究でいいと思いますが、日本語が苦手な生徒のために、教員が英語を向上させ、サポートできるようにするための研修があってもいいと思いました。このことは、現地採用教員との一層のコミュニケーションの充実のためにもなると思います。
- ・学級経営から「自分で決める」「協働的に考える」の素地を作る。
- ・場面や課題設定を工夫する。
- ・日々の授業の積み重ねで児童生徒を伸ばす。
- ・児童生徒に自分の成長が見えるようにする。
- ・「楽しいものは自分でつくる」→人が与えてくれるものではない。

- ・見通しを持たせると主体的に動ける。
- ・ICT を時短に使う。
- ・教師自身が楽しんで授業に臨むこと。
- ・児童生徒の交流を盛んにして学習効果を高める。
- ・以上、今日のリフレクションで印象に残ったことです。大変勉強になりました。
- ・今日の振り返りでも先生方から「取り組みやすい研究だった」という話が出ている通り、額賀先生が目指す気軽に授業の話合いをしながらも深めていける校内研究だったように思います。
- ・研究の振り返りもグループで話しながら授業について考えるきっかけとなって、刺激をもらうことができる機会でした。話し始めると時間が足りないと感じることも……。こうした時間を長く取れるとより楽しくなると感じました。
- ・今回の研究主題は今求められている力をつけていくために必要な視点だったと思います。その中で先生方が考えた手立てがとても参考になりました。それを意図して自分の授業の中にも取り入れることができました。子供の学びと同じように、自分らしく授業する部分。そこに新たな視点を取り入れて新しい違う自分になっていく部分。これらを両輪として成長していくのは教師も一緒だと感じました。
- ・研究主任のリーダーシップで充実した研究となりました。
- ・子どもたちの主体性を引き出す実践を授業を通して沢山見せていただきました。それぞれの先生方の考えがよくわかり、子どもたちの成長もわかる1年でした。リフレクションにより、普段なかなか話できない方の考えを聞いたり、授業の土台にある考えがわかったり非常によい機会となりました。
- ・次年度の研究は、このまま主体性を伸ばす取組と並行して、子どもたちが自らついた力を振り返り、見通しをもって次に取り組む一助となる「自己評価」のあり方などはどうでしょうか。
- ・来年度の研究テーマについて、今年度と同様にします。追加として、子供の意識調査をしてそれをサブタイトルにする。また、インスペクションでもあったことだが、1年間で自分で教えた子供たちがどんなに変容したかを意識するといい。
- ・「主体性を引き出し、協働的に追及し続ける児童生徒の育成」をするために大事なことです。
- ・ICT を使う。平素から生徒の興味関心を意識して、授業にそれを取り入れていく。学級経営や学年経営を絡めてこのテーマを学校全体の行事等で実践していくことが大事である。
- ・様々な強みや経験を持たれている先生方と授業や日々教育活動を行う上で大切にしていることなどを話す機会が研修会の中で設定されていたことがなによりも有意義でした。
- ・今日のリフレクションの中でもあったように、「教える側」と「教わる側」という概念を子どもたちと行う授業の中や研修会でも取り外すことができればよい学びの場となるのではないかと思います。
(もちろん、基礎的な知識技能は必要だとも思います。)
- ・毎日の授業や研修のリフレクションを含めて、ICT 機器を活用することで非同期で行うことができる、ポートフォリオ的に貯めることができる、発信する機会の増大などメリットが多いので活用をしたいです。

校内研究だより発行

I 発行日時

No.1 2023.4.28（金）発行

No.2 2023.5.19（金）発行

No.3 2023.6.16（金）発行

No.4 2023.7.14（金）発行

No.5 2023.8.25（金）発行

No.6 2023.9.15（金）発行

No.7 2023.10.27（金）発行

No.8 2023.11.24（金）発行

No.9 2023.12.15（金）発行

No.10 2024.1.12（金）発行

No.11 2024.2.9（金）発行